



国立大学法人北海道大学

地域水産業共創センター

Regional Fisheries Co-Creation Center

令和6年度事業報告書

目次

巻頭言	2
地域水産業共創センターの概要と主なミッション	3
1. 産学官連携事業企画・運営の支援	4
1.1 競争的資金獲得	
1.2 函館マリカルチャープロジェクトの研究開発支援	
1.3 その他の支援	
2. 研究シーズの把握・発信	15
2.1 教員インタビューによる研究シーズの把握	
2.2 LASBOS システムの利活用による発信	
2.3 産学・地域協働コーディネート業務実績	
3. 地域連携に向けた活動	17
3.1 地域懇話会の実施	
3.2 自治体との連携	
3.3 自治体訪問・ニーズの発掘	
3.4 その他の地域連携	
4. 学術コンサル・共同研究・寄附金等に繋げる活動	23
4.1 企業訪問、ニーズの発掘	
4.2 企業との連携	
5. GREEN 人材育成プログラムの企画・運営	25
5.1 GREEN 人材育成カリキュラム	
5.2 函館をもっと良いまちに！プロジェクト	
5.3 小中高生への支援	
5.4 LASBOS との連携	
5.5 その他	
6. その他の活動	39
6.1 産学・地域協働推進機構及び URA との連携	
6.2 ホームページ掲載実績、報道実績	



北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部 地域水産業共創センター(以下、「共創センター」という。)は、北海道大学の研究開発力、人材育成力、地域の文化的資源・自然資源等の「地域の強み」を活かした産学官金労言協働を推進し、産業の発展とイノベーション創出を通じた地域・社会の振興につながる持続可能なシステムの構築、それらを支える人材の育成を目的として北海道大学函館キャンパス内に設置されました(設置日:令和4年10月1日)。

共創センターは、大学と地域・社会をつなげる地域共創の場として、知・情報・人材のハブ機能(個々の企業・自治体関係者・研究者・学生・市民が蜘蛛の巣のように相互に結びつくイメージ)を担い、ワンストップ窓口となることを目標としています。

共創センターは、設立以降、地域共創に必要な3つの視点「内発」「総合」「革新」をもって、地域の様々な関係者の皆様と共に歩んでおります。

「内発」とは地域に住む方々の意志で物事がはじまること、「総合」とは一つのことだけをおこなうのではなくそれを核として多様な展開を図ること、「革新」とは従来とは異なる新しいことをおこなうことです。

例えば、函館市では令和4年度からキングサーモンやマコンブの完全養殖に挑戦する「函館マリカルチャープロジェクト」が取り組まれており、北海道大学をはじめとする地域の高等教育機関や公設試験研究機関の新しい技術を活用した養殖研究(革新)が進められており、地域の住まう皆様とともに(内発)、この技術により生産されるサーモンやコンブを飲食業や観光業など、社会に実装・活用される(総合)ことを目指しています。

共創センターも、このプロジェクトの推進はもちろん、新しい産業を生み出し、育てていくための地域の教育・人材育成にも携わり支援しております。この一連の作業は、私たちが住むまち、函館を自ら創り出す作業に他なりません。

令和6年度においても、共創センターは「産学官連携事業の支援」、「研究シーズの把握・発信」、「地域連携に向けた活動」ならびに「人材育成プログラムの企画・実施」など、「まち」づくりのために、幅広く地域の「ひと」と関わり、育て、新しい「しごと」を創り出すサポートに邁進してまいりました。

今後も地域の方々とともに、多種多様な分野で活動する方々を結びつける機会を創出するとともに、情報を発信し、異分野交流の「ハブ」機能として活動すべく、スタッフ一同奮励努力してまいります。

是非、お力添えのほどお願いいたします。

北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部
地域水産業共創センター センター長

都 不 靖 彰

地域水産業共創センターの概要と主なミッション



共創センターは、北海道大学が、函館・道南地域において産学官金連携による社会・地域の課題解決、および新しい価値の共創に取り組み、知の拠点・シンクタンクとして地域振興へ貢献するために設置された。

北海道大学の研究開発力、人材育成力および地域の文化的資源・自然資源等の「地域の強み」を活かした産学官金労言協働を推進し、産業の発展とイノベーション創出による地域振興につながる持続可能なシステムを構築するとともに、これからの地域社会を支える人材を育成していくことを目指す。

そのために大学と社会(企業－研究者、企業－学生、企業－企業、企業－自治体、自治体－研究者、自治体－学生、学生－学生など)をつなげる産学官連携の実践の場となり、地域の知・情報・人材のハブ機能を担っていくことを目標にしている。



主なミッション

- ①教育、研究開発、社会連携をコーディネート
- ②地域・企業等のワンストップ窓口
- ③教育研究活動をサポート

知の拠点・地域のシンクタンク

地域水産業共創センター業務	
 産学官連携事業企画・運営の支援	 CREEN人材育成プログラムの企画・運営
 学術コンサル・共同研究・寄附金等に繋げる活動	 地域連携に向けた活動
 研究シーズの把握・発信	 その他の活動



1.産学官連携事業企画・運営の支援

産学官連携事業の企画運営の支援等として、他大学や団体等からの学校訪問企画の受入れやイベントへの参画のほか、競争的資金の申請支援や内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」による「函館マリカルチャープロジェクト」における研究開発支援を行った。

特に同プロジェクトのうち、人材育成に関わる事業については、共創センターの重要な活動の一つと考え、「CREEN 人材育成プログラム」を業務の6項目の柱の一つとして位置づけている。(P28以降参照)

1.1 競争的資金獲得

令和6年度は、これまで採択された「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」(J-PEAKS)の関連シンポジウムへの参画、共創の場の教育・人材育成に関する交流・活動のほか、競争的資金の申請に係る伴走支援等を行った。令和7年度もJ-PEAKSをはじめとするポストアワード及び新規プレアワードの支援を行う。

1.1.1 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)

令和4年度に北海道大学で採択された日本学術振興会(JSPS)の地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)「フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開」において、共創センターも北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部(以下、「大学院水産科学研究院」という。)の関係教員と連携を図りながら、引き続きマネジメント体制の構築および事業の推進を図ったほか、論文投稿支援や関連イベントへの参画、サイトビジット対応などを実施した。

○論文投稿支援

研究者の論文投稿支援として、共創センターでは、下記のとおり、大学院水産科学研究院の教員を対象に、論文の投稿や英文校閲等に係る費用支出の手続き支援を行った。

令和6年度	論文投稿支援件数	5件	英文校閲支援件数	9件
-------	----------	----	----------	----

○地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)キックオフシンポジウム

令和6年7月25日(木)に開催されたキックオフシンポジウム「新たな持続的食料生産システムの構築と展開」において、大学院水産科学研究院からは、宇治利樹助教による「リジェネラティブ水産業による持続的食料生産システム」について発表が行われた。

パネルディスカッション「ありたい未来の食料生産システムの実現に向けて」では、日本サーモンファーム株式会社(JSF)代表取締役社長 鈴木宏介氏(共創センタークロスアポイントメント特任准教授)が登壇し、未来の農水産業について議論がなされた。共創センターは産学官連携事業に係る支援として、本事業を推進する。



○サイトビジットの対応

令和7年2月5日(水)J-PEAKS で実施している「リジェネラティブ水産業による持続的食料生産システム」に関する研究フィールド現地視察が行われた。J-PEAKS の振興に係る伴走チームのサポーターが来函館し、七飯淡水実験所、函館キャンパス、函館市国際水産・海洋総合研究センター、養殖試験海面生け簀などを視察した。本視察は、道南地区における水産の研究フィールドについての理解を深めていただく機会となった。



屋外水槽での飼育について説明
(七飯淡水実験所)



長期保存したマコンブ配偶体の説明
(函館キャンパス 共通実験室)

1.1.2 共創の場

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の共創の場加速・充実化支援事業に採択され、実施中(長崎大学 COI-NEXT「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点)[主宰]、北大は連携機関)。ポータルページ「養殖を柱とした地域活性化のための人材育成事業」(長崎大学 / 琉球大学 / 北海道大学)を LASBOS Moodle 内に設置し、情報発信や3大学連携による教育プログラム交流などを実施した。(令和7年度も継続採択。)

○ポータルページ(LASBOS Moodle 内)の開設・運用

3大学連携による人材育成事業のポータルページを、共創センターが運用している「LASBOS Moodle」内に開設し、各事業の概要及び教育プログラムの特長を集約的に発信したほか、連携大学の学生の教育プログラム交流の募集や参加学生のレポートなどを公開した。



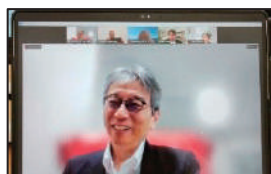
○教育プログラム交流(CREEN 人材育成カリキュラム(演習)へのスポット参加)

CREEN 人材育成プログラムのうち、養殖や水産に関する現場実践プログラム、起業家に必要な実践知見を身につけるプログラム、地域づくりを構想するプログラムに長崎大・琉球大の学生のスポット参加を認める教育プログラム交流を実施した。(参加体験の SNS 投稿、学びのレポート、関心を共にする学生同士の交流の 3 点をミッションとして参加。全7回、参加者 18 名)



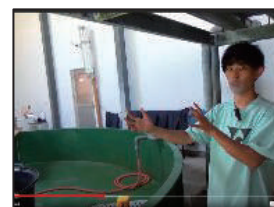
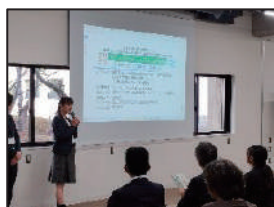
○大学リーダーへのインタビューの実施, 人材育成ワークショップの開催

連携する 3 大学の各事業リーダー(大学院水産科学研究院長:都木教授、琉球大学理学部副学長:竹村教授、長崎大学海洋未来イノベーション機構長:征矢野教授)に事業の背景・狙い・連携への期待等に関する個別オンラインインタビューを実施し、事業に対する理解促進や情報発信を行ったほか、3 大学の関係者による「新水産教育・人材育成検討」ワークショップを開催して、水産人材育成プラットフォーム構築に向けた構想図をとりまとめた。



○学びの交流と教育コンテンツ化

CREEN 人材育成プログラムにおける取組として「函館をもっと良いまちに！プロジェクト:学生と地域の共創の新しいカタチ～学生団体 ISARIBI with の活動を囲んで～」(9/29、水産科学未来人材育成館)を 3 大学連携事業として共催し、ポスターセッション等の企画を融合させ、3 大学連携事業のメンバー(長崎大 4 名、琉球大 3 名の学生参加)と地元学生の人的交流を図ったほか、大学院水産科学研究院の大学院生を長崎大に派遣し、COI-NEXT 関係研究者の取材を通して他大学の取り組み学ぶ機会を創出、取材内容を共創センターで編集、教育コンテンツ化して LASBOS を通じて公開した。



1.1.3 その他連携大学・企業等の補助金申請支援状況

プレアワード業務(研究を行うために必要な研究資金獲得に向けた支援業務)やポストアワード業務(研究費を獲得した後に関わる研究支援業務)として、伴走支援した。

○令和6年度 競争的資金獲得に向けた取り組みや支援案件

補助事業名(事業主体)	内容	申請者 (代表または本学担当教員)
洋上風力発電人材育成事業費補助金 (経済産業省資源エネルギー庁)	北海道洋上風力アカデミー	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター(担当教員:リニューアブルエナジーリサーチ&エデュケーションセンター(REREC)藤森康澄教授)
海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業(国土交通省)	自動航行型無人潜水機(AUV)と音響技術を組合せた沿岸漁場総合測定システムの実証実験	株式会社大歩 (担当教員:向井徹教授)
共創の場形成支援プログラム 他機関等との連携強化による拠点ビジョン実現の高度化・発展支援(JST)	・「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点 ・資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステナブル陸上養殖のグローバル拠点	長崎大学 (担当教員:都木靖彰教授、細川雅史教授、他12名) 琉球大学 (担当教員:高橋勇樹准教授、他7名)
ふるさとものづくり支援事業 新商品開発等支援補助金(ものづくり財団)	「ウニ完全閉鎖型陸上養殖の技術開発事業」	留萌中ゲタ港運株式会社 (担当:浦和寛 准教授)
地域経済循環創造事業交付金 ロール 10,000 プロジェクト(総務省)	「北海道ウニ完全閉鎖循環式陸上養殖による地域ブランド創出事業」	
大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム ステージ1(JST)	未利用水産資源を原料とした機能性家畜飼料の開発	北海道大学大学院水産科学院 M1 辻井豪佑

補助事業名(事業主体)	内容	採択日・事業期間
「研究開発型スタートアップの起業・経営 人材確保等支援事業/ディープテック分 野での人材発掘・起業家育成事業 (NEP)〈開拓コース〉「NEDO-Front- Runner(FR)」(NEDO)	「未利用水産資源を原料 とした機能性家畜飼料の 開発」	北海道大学大学院水産科学 院 M1 辻井豪佑

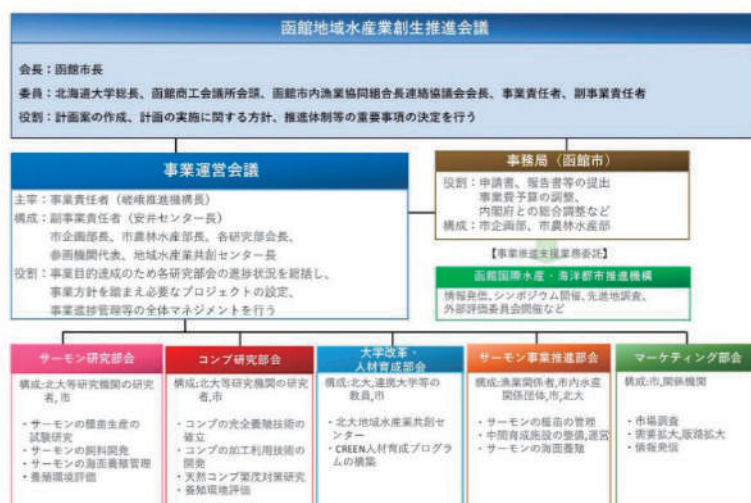
○令和5年度採択事業(継続中の事業)

補助事業名(事業主体)	内容	採択日・事業期間
地域中核・特色ある研究大学強化促進事 業(J-PEAKS)(日本学術振興会)	フィールドサイエンスを基 盤とした地球環境を再生 する新たな持続的食料生 産システムの構築と展開	令和5年12月22日 令和5年度～令和10年度
戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 課題名:ポストコロナ時代の学び方・働き 方を実現するプラットフォームの構築 (JST)	自分らしく生き、自分の 意志で決定できる社会を つくる学びの北海道モデ ルの構築と展開	令和5年8月25日 令和5年度～令和9年度

1.2 函館マリカルチャープロジェクトの研究開発支援

函館マリカルチャープロジェクト(計画名:魚介藻類養殖を核とした持続可能な水産・海洋都市の構築～地域カーボンニュートラルに貢献する水産養殖の確立に向けて～)は、内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」を活用し、キングサーモンとマコンブの完全養殖技術、さらには先駆的な取り組みとして魚類養殖により排出されるCO₂を海藻養殖により吸収する地域カーボンニュートラル(Regional Carbon Neutral:RCN)による水産養殖研究を推進して地域で養殖産業群を形成するとともに、その現場での実践的な教育研究により企業と若者を集め地域に定着させることで、持続可能な水産・海洋都市を実現することを目的とした事業である。

本事業は「サーモン研究部会」、「コンブ研究部会」、「大学改革・人材育成部会」、「サーモン事業推進部会」、「マーケティング部会」の5つの部会から構成され、そのうち、共創センターは主に各部会の資料作成支援等のほか、「大学改革・育成部会」に関わる業務として、CREEN 人材育成プログラム(詳細は、「5.CREEN 人材育成プログラムの企画・運営」の項に記載)等の業務を実施している。令和7年度以降は、これまでの実績を踏まえ、社会実装を見据えたプロジェクト後半の準備を進める



(引用:函館マリカルチャープロジェクト HP)

1.2.1 サーモン研究部会および 1.2.2 コンブ研究部会

研究開発の柱である「キングサーモン完全養殖研究開発」と「マコンブ完全養殖研究開発」の支援として、研究部会への出席(計4回)や研究課題の追加・修正に関する相談・調整などを実施した。

1.2.3 大学改革・人材育成部会

共創センターが実施主体として進めている CREEN 人材育成プログラムに関して、部会資料の作成(令和6年度は計6回)のほか、各種教育プログラムの企画・実施を行った。(詳細は、「5.CREEN 人材育成プログラムの企画・運営」の項に記載)

○海外トップレベル人材の招へい

国家戦略として養殖漁業を推進しているノルウェーにおいて養殖研究を牽引するベルゲン大学との連携活動を強化するため、大学院水産科学研究所－ベルゲン大生物学科間で、部局間交流協定を締結(令和6年7月)し、国際共同研究および協働教育の促進に向けたプラットフォームを構築した。

トップレベル人材招へい事業として、ノルウェーから養殖業の最先端研究者を招へいしての講義を開催したほか、北太平洋におけるキングサーモンの特徴、北米の水産養殖研究の動向や水産・海洋に関する施策に関する知見を学ぶ機会として、アメリカのオレゴン州立大学やハワイ大学からもトップレベル人材を招へいし、国際的に展開する養殖研究について学生の知見を広げる機会とし、あわせて、研究者間の交流促進を図った。

今後もベルゲン大学をはじめとした最先端研究者との交流促進を継続するため、引き続きトップレベル人材の招へいなどにより、学生や研究者に対する技術指導や研究内容の共有、共同研究に関する意見交換などを促進していきたい。

協定締結日	締結先	締結内容
7月5日(金)	ベルゲン大学生物学科	両者間で研究・教育を協働して進める

<トップレベル人材 令和6年度招へい実績>

招へい日	招へい人材	講義内容
6月17日(月)	ノルウェー・ベルゲン大学 トム・オル・ニールセン准教授	ノルウェーの水産養殖と水産業に関する講義
1月8日(水)、10日(金)	アメリカ・オレゴン州立大学 ブライアン・バックマン博士	北太平洋におけるキングサーモン生活史のパターンに関する講義
1月10日(金)	アメリカ・ハワイ大学 ダレン・ラーナー博士	アメリカにおける水産養殖のハブに関する講義等

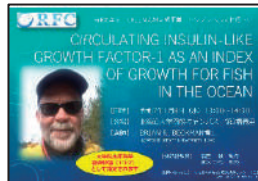


連携協定書イメージ



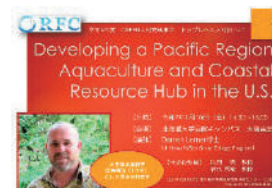
トム・ニールセン准教授

講義の様子



ブライアン・バックマン博士

講義の様子



ダレン・ラーナー博士

講義の様子

○国内トップレベル人材の雇用(クロスアポイントメント)

学術教育に加え実務教育を推進するために魚介藻類養殖に精通する会社関係者を雇用し、地域の養殖産業の確立に貢献してもらうと共に学生教育の充実を図った。



講義の様子

(株)日本サーモンファーム

代表取締役社長 鈴木宏介氏

・サーモン養殖産業の最前線に関する知識や経験を教員や学生に教授し、養殖現場の視察研修の講師を担当

1.2.4 サーモン事業推進部会

サーモンの事業化に際しての必要事項の洗い出しや今後の計画について議論する部会について、関係者から情報共有を定期的実施した。

1.2.5 マーケティング部会

マーケティング戦略の策定等を行い、マコンプ研究開発の出口となる増産分の利用促進・販路拡大に向けた取り組みを検討する部会(4回)に出席し、部会の取り組み状況についての情報収集を行った。

1.2.6 その他

その他、函館マリカルチャープロジェクトのPR活動として、各種イベントでのブース出展などを行い、プロジェクトに関する広報活動を実施した。

○BLUE ECONOMY EXPO@駿河

令和6年7月17日(水)~18日(木)に「BLUE ECONOMY EXPO@駿河湾」に参加し、函館市の出展ブースにおいて、函館マリカルチャープロジェクトの取り組みをPRしたほか、研究開発に関する説明を展開。ブースには約70社の各機関が訪れ、有意義な情報共有・意見交換がなされた。



ブースの様子



発表の様子

(写真提供:函館市経済部)

○ビジネス EXPO「第38回北海道技術・ビジネス交流会」

令和6年11月7日(木)、8日(金)の2日間、札幌市白石区流通センター内のアクセスサッポロにおいて開催された北海道最大級のビジネスイベント・ビジネス EXPO「第38回北海道 技術・ビジネス交流会」において、一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構と共同で、「学術・試験研究機関展示ゾーン」に函館マリカルチャープロジェクトのブースを出展し、プロジェクトの研究内容等の発信と「函館真昆布」の認知度向上および共創センターのPRを展開した。ブースには100名近くの方々が訪れ、共創センターや人材育成プロジェクトについての紹介を行いつつ情報交換を行った。これにより、今後の産学官連携に向けて認知度向上が図られた。



ブースの様子（写真提供：一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構）

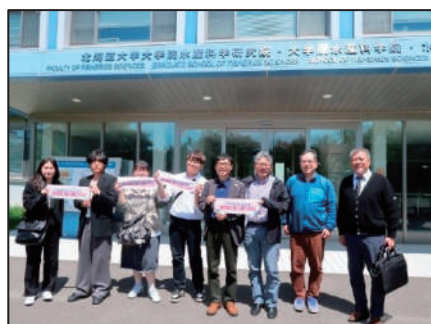
1.3 その他の支援

共創センターや本学研究者の取り組みなどを広く知ってもらうとともに、地域への学びの機会を提供する取り組みとして、本学や共創センターへの視察訪問対応や各種イベントへの参画などを実施した。令和7年度も継続して実施し、大学院水産科学研究院の取り組みの周知および地域への学びの機会提供に努める。

1.3.1 韓国チェジュ大学視察研修

令和6年5月14日から17日にかけて、韓国チェジュ大学から日本のコンブ加工についての視察研修生(4名+教員1名)の受け入れを行った。(担当:大学院水産科学研究院 平松准教授)

研修のうち、15日の北海道立工業技術センターにおける講義「日本におけるコンブ利用の歴史と加工の方法」と施設見学、および16日の道南伝統食品協同組合の工場見学と「函館市南茅部地区におけるコンブ加工高付加価値化について」の講義について担当し、企画・調整・サポートを実施した。



本学函館キャンパス前での集合写真



道南伝統食品協同組合 工場見学

1.3.2 豊頃町大津漁港建設利用促進期成会視察対応

令和6年6月24日(月)、中川郡豊頃町の「大津漁港建設利用促進期成会」の大学院水産科学研究院の視察研修受け入れに協力し、共創センターの事業紹介のほか、大学院水産科学研究院内の施設見学と工藤教授による「サケの最新研究に関して」の講演を実施した。



視察の様子



視察の様子

1.3.3 マリンフェスティバル 2024 への参画

令和6年7月13日(土)・14日(日)の2日間、函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて開催された「函館マリンフェスティバル 2024」において、共創センターのPR展示のほか、函館マリカルチャープロジェクトと共同でキングサーモン研究開発の段階で発生した間引き稚魚を活用して作成したオイルコンフィの試食提供を実施し、キングサーモン研究開発を地域の方々に知っていただく機会となった。

その他、函館マリカルチャープロジェクトの人材育成事業(CREEN 人材育成プログラム)の一環として実施している「函館をもっと良いまちに！プロジェクト」において設立した「学生団体 ISARIBI with」の紹介展示や学生がデザインしたキングサーモンステッカーを配布するなど、今後のキングサーモン研究開発と人材育成に関するPRを展開した。



学生団体 ISARIBI with のメンバーによる活動紹介



キングサーモンのオイルコンフィ試食

1.3.4 産業教育実習助手資質向上事業

令和6年7月29日(月)および8月1日(木)の両日、全国の水産高校の実習を担当する先生方を対象とした産業教育実習助手資質向上事業に関する協力として、水産学通論1.2.3および13について担当。29名の水産高校等の実習助手の先生方を対象に「水産業と街づくり」をテーマとして函館市内の水産加工工場の視察研修、および函館市における水産を活用した街づくりの事例紹介などを行い、グループワークや成果発表を通して、参加教員同士の活発な意見交換が行われた。



市内の加工工場見学の様子



グループワークの様子

1.3.5 JICA 研修への支援

令和6年8月19日～9月27日の間、大学院水産科学研究院が独立行政法人国際協力機構(JICA)から委託を受け、アフリカ・東南アジア域から研修生が参加した国際研修「水産資源の持続的利用とバリューチェーン開発」を実施した。

共創センターでは令和6年9月3日、4日、9日の3日間でサブセッションとして、「函館地域における水産コミュニティ開発の実例」を担当し、一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構、公益財団法人函館産業振興財団、地方独立行政法人函館水産試験場、郷土風味・魚来亭と連携し、函館における持続的な水産業の確立に向けた幅広い産・学・官連携による取り組みの実例を紹介した。

本サブセッションには9名(バングラディッシュ、インドネシア、ケニア、モロッコ、モザンビーク、フィリピン、セーシェル、タンザニア、トンガ)の研修生が参加し、見学等の学習のみでは終わらない、自国における水産業の発展に向けたアクションプラン作成した。共創センターは、函館地域における水産コミュニティで実施している持続的利用やバリューチェーン開発の実例を紹介してプラン作成に貢献した。



2.研究シーズの把握・発信



共創センターでは、研究者の研究シーズを発掘し、社会実装の可能性や地域の課題解決に向けた取り組みに繋がれるかの検証を行うとともに、研究内容をより企業・自治体・地域の方々に知ってもらうため、教材サイト「LASBOS」などを活用した情報発信を実施した。令和7年度以降も効率的な情報収集・作成と発信を継続する。

2.1 教員インタビューによる研究シーズの把握

大学院水産科学研究院に所属の教員を対象に、研究シーズの把握や外部競争資金とのマッチング、研究広報の充実などを目的に、インタビューを実施した。

【対象人数】

令和5年度実施 30名

令和6年度実施 20名

令和7年度実施(予定) 13名程度 合計 63名程度

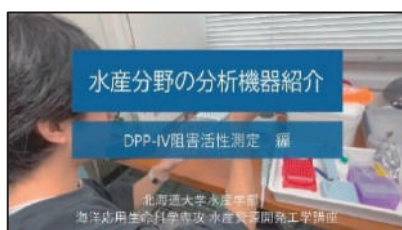
来年度も引き続き部局内の研究シーズ把握と情報収集を行いながら、部局(教員－教員等)間や部局と企業間との連携可能性など、外部競争資金とのマッチング、研究広報の充実を検討していく。

2.2 LASBOS システムの利活用による発信

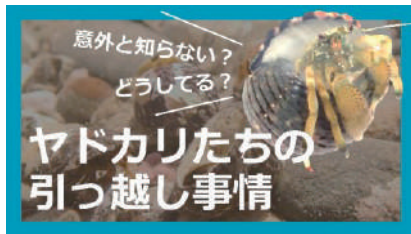
共創センターが運用している教材サイト「LASBOS Moodle」を活用し、大学院水産科学研究院の研究者や学部生・大学院生の研究内容を動画コンテンツ化・配信するなどし、広く研究シーズを発信した。

<発信の例>

○動画コンテンツ「水産分野の分析機器紹介 DPP-IV 阻害活性測定編」[熊谷准教授]、「生産プロセス工学実習 有価成分の分析」シリーズ[安藤准教授]を研究紹介、調査・研究手法、授業紹介カテゴリに搭載・公開した。



○動画コンテンツ「ヤドカリたちの引っ越し事情」、「魚類分類学の紹介～軟X線写真の撮影と活用～」を研究紹介および在学生の活躍カテゴリーに搭載・公開した。



○大学院水産科学研究院の教員が出演のラジオ番組のウェブページにて、研究内容の紹介として、LASOBOS 動画を紹介

ジョン・バウア先生、世界のあこがれ～北海道ブランド～ | AIR-G (FM 北海道) | 2024/12/22/ 日 18:30-18:55 <https://radiko.jp/share/?sid=AIR-G&t=20241222183448>

これにより LASBOS を閲覧した方から直接数件の問い合わせをいただき、今後もシステムを活用した研究シーズの発掘を行っていく。

2.3 産学・地域協働コーディネート業務実績

企業や団体などからの相談をはじめ、産学協働に関係する機関と連携しながら、地域水産業の課題解決及び新しい価値の共創に取り組み、令和 6 年度は本学教員と市内企業との連携による沿岸漁場総合システム(P9 参照)の検証事業につながるなど、函館地域を中心に様々なステークホルダーとの協働を推進した。令和 7 年度は課題解決と価値共創を共同研究等に積極的につなげていく。

【令和6年度 相談実績(延べ)】

行政	企業	団体	大学 (研究者)	学生	その他	合計
102	279	49	107	169	66	772

3.地域連携に向けた活動



共創センターでは、地域の自治体、企業、団体と連携し、それぞれが持つ課題や地域活性化に向けた展望をヒアリングする中で、研究者とのマッチングや各種イベントへの参画など、様々な地域連携に向けた活動を行っている。

令和6年度においても、地域企業が意見交換を行う場として地域懇話会の実施や道南地域との連携、自治体訪問によるヒアリングなどを実施し、地域に根差した活動を展開した。令和7年度も継続して地域との連携活動を実施し、地域共創を推進していく。

3.1 地域懇話会の実施

地域の企業や団体が持つ課題や今後の地域活性化に関する展望などに関して意見交換する場として、「地域懇話会」を実施した。(第1回:令和6年8月23日(金)、第2回:令和6年10月29日(火))

令和6年度は、地域の多業種が集まり地域活性化について議論する団体、産学官連携「クリエイティブネットワーク」との共催で、企業－企業のほか、企業－学生とのネットワークの構築など、幅広い連携を構築する機会としたほか、クリエイティブネットワークの会員による地域課題解決に向けた「市への提言」に向けた議論へも参画・支援した。



意見交換の様子
(写真提供:(株)たがやす)



意見交換の内容を可視化する
グラフィックレコーディングの様子

(写真提供:(株)たがやす)

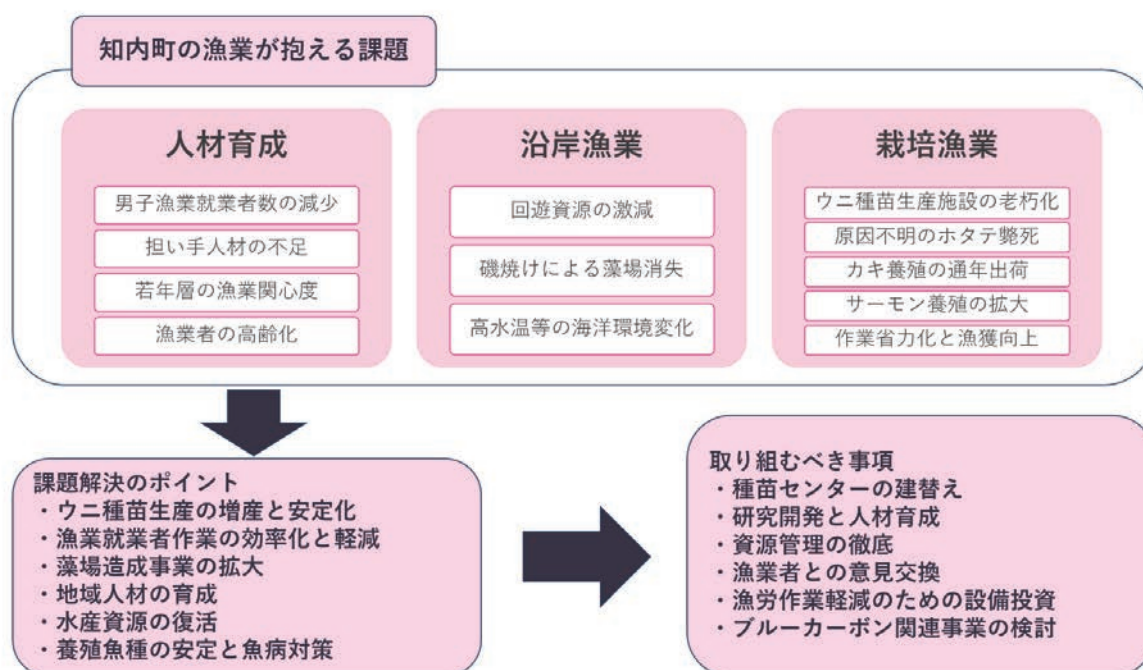
令和7年度は他の団体の参加促進を図りつつ、業界間の連携を強化するとともに学生とのネットワーク構築を目指す。

3.2 自治体との連携

3.2.1 知内町等との三者包括連携協定

令和6年4月10日、知内町・北方生物圏フィールド科学センター・大学院水産科学研究院との三者包括連携協定を締結した。

これにより知内町をフィールドとした地域人材育成への貢献や教育研究フィールドとして活用することに伴う地域活性化のみならず、新たなイノベーション創出につながることが期待され、今後関係教員の研究内容に関して、知内町での活動の可能性について検討していく。



協定調印式の様子



養殖施設の見学

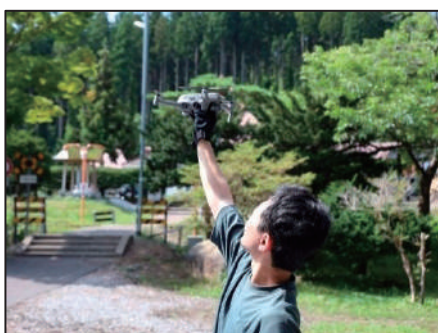
令和7年度は連携に基づき教員の研究フィールドとしての活用の他、地域と連携した人材育成の強化を目指す。

3.2.2 木古内町「みらいある・木古内学園」および北水ドローン研究会との連携

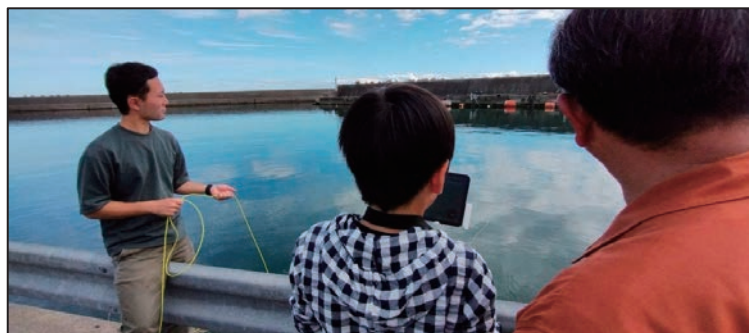
北水ドローン研究会と協働し、木古内町「みらいある・木古内学園（地方体験交流事業）」の支援を得て、学生や一般の方を対象とした地域の現状を学び、地域の方と一緒に魅力を発見し、発信することを目的とした教育プログラムを企画・実施した。

令和6年8月10日（土）、11日（日）、木古内町郷土資料館（いかりん館）で木古内町の地理・歴史を学ぶとともに、町職員による町の概要やイベントの紹介、ドローンの練習をする中学生との交流などを行ったほか、令和6年10月5日（土）、6日（日）には、空中ドローンを用いて地域の魅力を改めて発見すること、および水中ドローンを用いて海や水産施設への関心を高めることを目的とし、ドローン体験会を同町で実施した。

今後もドローンのほか様々な機器を用いながら、地域の魅力を発見できるような教育プログラムの展開を検討していく。



レクチャーの様子



水中ドローン操縦を体験する地域小学生の様子

3.2.3 八雲町との共同研究に関する支援

大学院水産科学研究院（平松尚志准教授らのグループ）は、令和2年から八雲町熊石海洋深層水総合交流施設（水槽センター）で、海水を入れた水槽でイトウを飼育しており、淡水魚であるイトウの海水適応力などに関する研究を行っている。引き続き、「研究シーズの把握・発信」の一環として活動を支援し、今後もイトウの海面養殖の可能性などを含めて引き続き連携していく。



イトウの刺身や燻製を試食する 岩村八雲町長



試食会で提供されたイトウ料理

3.3 自治体訪問・ニーズの発掘

令和7年2月から3月にかけて、道南域の各自治体を訪問し、共創センターの活動内容や目指すべき役割などの周知活動を展開したほか、それぞれの地域が抱える水産業や人材育成に関する課題や今後の展望などをヒアリングした。

ヒアリングを通して、これまでも知内町との連携などにつながるなど連携の推進が図られたため、今後も定期的に各自治体を訪問する中で、研究シーズとの連携可能性の検証や自治体が考える今後の展望などを把握するとともに、共創センターのPRなどを展開していく。

3.4 その他の地域連携

その他の地域連携活動として、地域の団体等の活動への参画をはじめ、函館地域を視察等で訪れた団体の受入れや各種イベントへの参画を行った。

3.4.1 キャンパス・コンソーシアム函館への参画

函館市内の8高等教育機関が「キャンパス都市・函館」の確立に向けて連携した活動を行う機関「キャンパス・コンソーシアム函館(以下、「CCH」という。)」が行い、各種研修や講義において、共創センターも連携・協力した。

○集中講義への協力

令和6年8月26日(月)、CCH で開講された令和6年度単位互換特別開設科目 集中講義 商学特講Ⅱ「函館・道南の歴史と産業(産業編)」のゲストスピーカーとして、共創センター福田覚教授が、函館マリカルチャープロジェクトの取組みを話題提供し、その背景にある函館国際水産・海洋都市構想の歩みと地域の将来を見据えた新たな水産業への期待について講義した。



授業の様子

○合同 SD 研修への協力

令和6年9月13日(金)、CCH 加盟校の教職員を対象に令和6年度合同SD研修会が行われ、共創センター福田覚教授が本研修会におけるテーマ「共同研究の活性化について」に係るCREEN人材育成プログラムの取組みを紹介した。CCH 加盟校と連携したCREEN人材育成カリキュラムは、教育プログラムではあるが、将来的に共同研究にも繋がる取組みであることを提案した。

3.4.2 No Maps 釧路・根室 2024 への参画

令和6年11月21日(木)釧路市のフィッシャーマンズワーフで開催された No Maps 釧路・根室 2024 のカンファレンス 5「地域養殖ビジネスの展望」に、共創センター福田覚教授がモデレーターとして、三瓶真特定専門職員が通訳兼パネラーとして登壇した。

カンファレンスでは、ノルウェー・ベルゲン大学トム・ニールセン准教授からノルウェーの養殖に関する現状と見通し、釧路市養殖事業調査研究協議会の市原義久会長から釧路市の養殖試験に関する現状と今後の計画、ならびに日本サーモンファーム株式会社(JSF) 代表取締役社長 鈴木宏介氏(共創センタークロスアポイントメント特任准教授)による、JSF が手掛けるサーモントラウトをはじめとする養殖の紹介がなされ、釧路市をはじめとする地域養殖ビジネスの展望に関する意見交換が行われた。



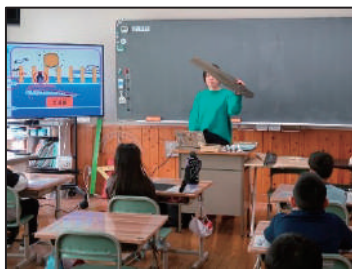
カンファレンスの様子

(写真提供:No Maps 釧路・根室 2024 実行委員会)

3.4.3 令和の里海づくりモデル事業との連携

令和6年11月28日(木)、「令和の里海づくり」のモデル事業として、株式会社 WMI 代表 伊藤慶子氏と連携し、「地域コミュニティの連携した環境適応型藻場づくりと持続可能な藻場再生モデルの開発」事業の実施を共催した。

対象は知内町立知内小学校の3年生22名で、第1部・身近な海に関する知識を学ぼう、第2部・食品残渣を使用した自然環境下で分解するねんどで海の生き物を作ろう、第3部・ウニ種苗センターで知内町の漁業について学ぼう、の3部構成で実施した。



第1部

身近な海に関する知識を学ぼう



第2部

食品残渣を使用した自然環境下で分解するねんどで海の生き物を作ろう



第3部

ウニ種苗センターで知内町の漁業について学ぼう

3.4.4 北海道議会経済委員会の視察対応

令和7年1月30日(木)、北海道議会経済委員会が道内の商工労働観光施策等の調査として、共創センター訪問し、視察対応を行った。

視察では、主に内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」である函館マリカルチャープロジェクトの一環で取り組んでいる「CREEN 人材育成カリキュラム」や「函館をもっと良い街に！プロジェクト」(学生団体 ISARIBI with)の事業について説明し、意見交換では、地域のステークホルダーとの連携状況や水産海洋都市構想との関連性、学生の地元定着に対する取り組みなど様々な意見が交わされた。

4.学術コンサル・共同研究・寄附等に繋げる活動



企業における課題を抽出し、課題解決に向け大学院水産科学研究院の持つ研究シーズによりその課題解決への協力の実施や企業間の連携協力などを行い、寄附や学術コンサルティングに繋げる活動を展開した。

4.1 企業訪問、ニーズの発掘

企業のニーズの発掘、またはそれによる研究シーズとのマッチングを目的とし、函館市内や道南地域の企業を中心に訪問、電話・メールなどによる問い合わせ、大学院水産科学研究院の教員や本学の産学・地域協働推進機構からの紹介等に対応した。

4.2 企業との連携 ※令和6年度の具体的な連携実績のみ記載

企業の事業活動の支援・課題解決のための企業相談や企業訪問等により、学術コンサルティングや寄附金などの資金を獲得。本活動は共同研究開発や社会実装に向けた活動であり、かつ地域振興に繋がる重要な活動として実施している。

4.2.1 株式会社北三陸ファクトリー

岩手県九戸郡洋野町の株式会社北三陸ファクトリーと大学院水産科学研究院において、「ウニ養殖技術開発に関すること」および「藻場再生技術に関すること」、「事業実施にともなう社会産業振興及び人材育成に関すること」について、連携協力に関する協定締結(令和5年10月26日(木))したことをきっかけとして、連携の一環で森町および森漁業協同組合と連携して実施している「陸上ウニ養殖実証実験」のほか、海上生け簀による養殖試験、農林水産省の交付金事業を活用したウニの実入り改善や輸出促進事業など、様々な取り組みについて伴走支援している。



養殖試験施設の様子



締結式の様子

(令和5年度)

4.2.2 日本精工株式会社

日本精工株式会社の新領域商品開発センターでは、企業理念に基づき本業に捉われない新しい事業領域におけるイノベーション創出を模索している。水産業の課題解決への自社技術活用について相談があり、学術コンサルティング契約を締結(令和7年1月9日～令和8年3月末)。「魚の出荷行程における付加価値向上に関する共同研究」を軸として、連携継続中である。



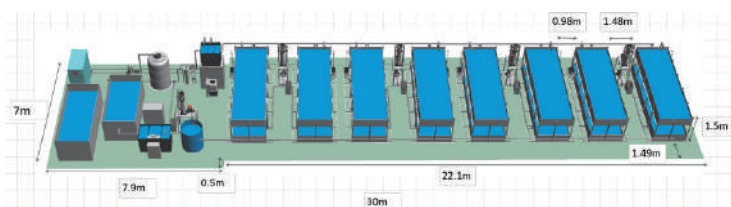
4.2.3 留萌セグタ港運株式会社

石炭・木材等の荷揚げや積み込みなどの業務を中心に事業を行ってきた留萌セグタ港運株式会社は、脱炭素社会の影響から、重要な取引先の一つの北海道電力での石炭の荷揚げも急激な減少となっており、事業転換を求められる状況にあり、留萌沿岸域における磯焼け進行に着目し、「痩せウニの養殖・加工・販売」の事業の検討を開始した。

留萌市や地元漁協のバックアップ体制もある中で、共創センターも学術コンサルティング契約を締結し、「ウニ養殖事業に関する支援」を継続実施中。令和6年度においても、総務省等の補助金を活用するなどしながら、閉鎖循環式陸上養殖システムの開発・検討などを進めている。



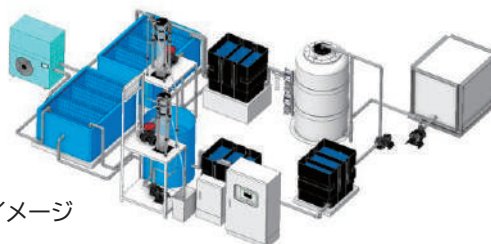
留萌市内に建設中



6月下旬完成予定ウニ陸上完全閉鎖型養殖システム

4.2.4 株式会社ベルデアクア

株式会社ベルデアクアは、プールや温浴施設で使用されてきた水処理技術を水産養殖へ応用し、コンパクトで制御可能な過システム(特許登録済み)を開発したが、このシステムをウニ養殖に適用させるため、留萌セグタ港運(株)での事業をフィールドとして、飼育・設備・濾過制御等を最適化させることを目的に学術コンサルティングを締結した。



閉鎖循環型陸上養殖システムのイメージ

4.2.4 株式会社エヌディーエスへの支援

チョウザメ廃棄部分から得られるコラーゲンとその有効活用について、大学院水産科学研究院都木教授(研究院長)が、学術コンサルティングを実施した。企業との橋渡しとして伴走支援を行った。

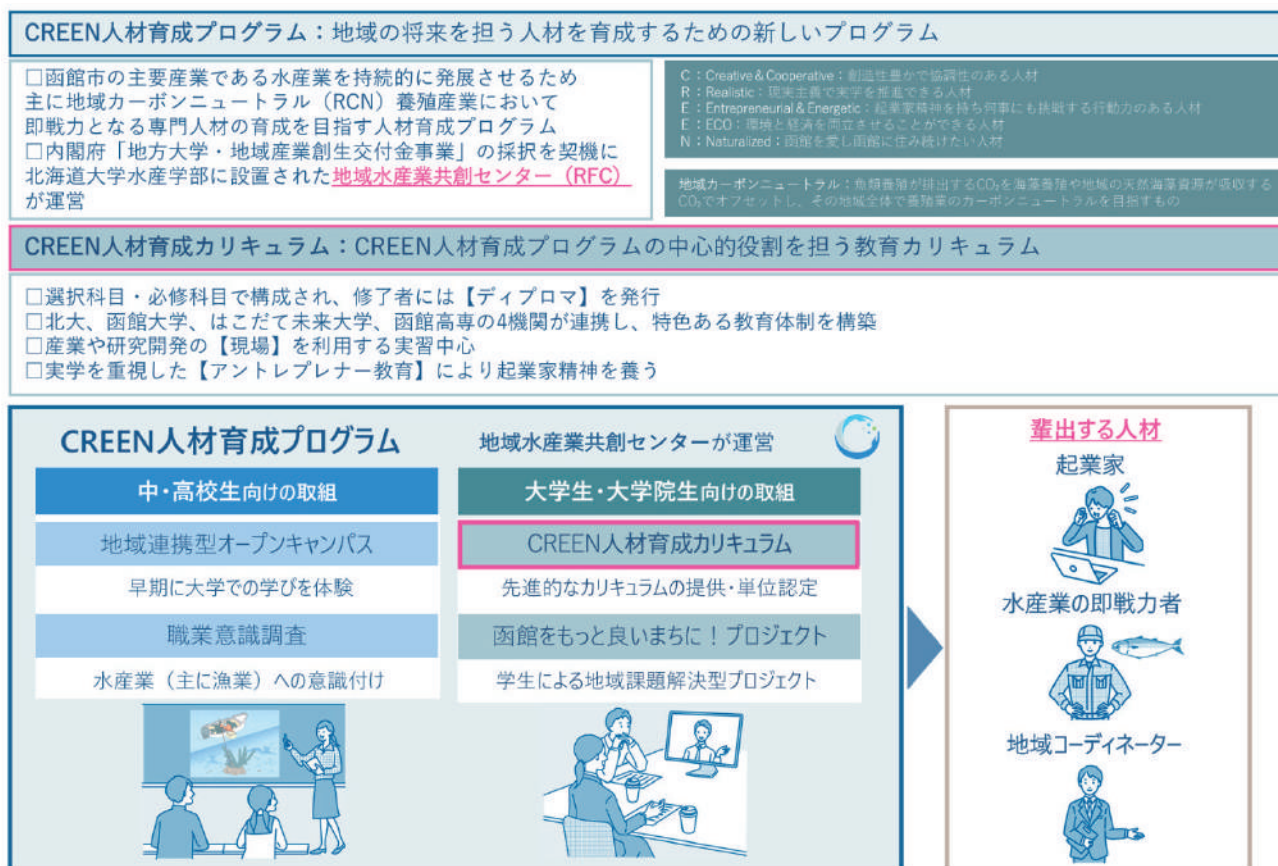
5. CREEN 人材育成プログラムの企画・運営



CREEN人材育成プログラムとは、内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」による「函館マリカルチャープロジェクト」の人材育成事業の一環として、生産、加工、販売、観光といった広範囲な水産業サプライチェーンを体験できる水産海洋都市・函館の地の利を活かし、水産業を中心とした地域産業に関連する大学・企業・自治体等の協働により、マーケット分析、バリューチェーン解析、アントレプレナーシップなど、RCN 養殖を中心とした持続可能な水産業の創出のために必要となる総合的な能力の涵養を目的としたプログラムである。

共創センターはこのプログラムの企画・運営を行っており、特に市内の高等教育機関と連携し、地域の特徴や課題解決方法を学ぶ中心的教育課程「CREEN 人材育成カリキュラム」のほか、学生が自ら地域の課題解決に取り組む「函館をもっと良いまちに！プロジェクト」などは、プログラムの重点事業として推進している。

<CREEN 人材育成プログラムの概要>



5.1 CREEN 人材育成カリキュラム

CREEN 人材育成プログラムの主要事業の一つであり、演習および講義(オンデマンド含む)から構成される。本カリキュラムは、水産学演習と起業家育成演習の必修科目(全 4 クレジット)と選択科目(8 クレジット分を選択)により科目修了者にはディプロマ(修了証)が発行される教育カリキュラムである。

「現場感覚」を持つ人材を養成することを目的に、函館市内の高等教育機関(大学院水産科学研究院、公立はこだて未来大学、函館大学、函館工業高等専門学校)に所属する学生を対象としている。全体の試行が終了して令和 7 年度からは本格実施期間に入るが、今後も学生の意見等を反映し、より魅力的なカリキュラムへと改良して地域人材の育成に貢献する。

5.1.1 必修科目:水産学演習(全 10 回)

水産学演習は、漁業・養殖業・水産加工業の現場を体験し、水産業の現状理解と課題解決のための能力を養う講義・演習である。昨年の受講者アンケートに基づき、現場見学と学生間の議論の機会を増やした結果、「この内容が無料で受けられることに驚いた」、「他学の学生とグループディスカッションできたことが良かった」等の意見が聞かれ、全ての回答者から演習内容は有意義との回答を得た。

<令和 6 年度 水産学演習> 参加実績 延べ人数59人 実人数 17 人

No	開催日	タイトル(講師)	受講者
①	6/14(金)	「コンブ課題のイントロダクション」 (北海道立工業技術センター研究開発部長 木下康宣氏)	8
②	6/17(月)	「函館圏におけるサケマス類水産業に関する歴史・現状・課題点」 (地域水産業共創センター 特定専門職員 三瓶真)	7
③	6/18(火)	「サーモン養殖生け簀見学研修1・収穫期」(マルナマ古清商店魚介藻類養殖事業室 松川雅樹氏) 「サーモン加工工場見学研修」(マルナマ古清商店総務部 部長 荒川博英氏)	5
④	6/29(土)	「コンブの収穫・乾燥作業等、浜における出荷前作業研修」(鹿部漁業協同組合 漁師 野場昭人氏)	9
⑤	8/29(木)	「コンブの加工・産地品質・生産流通」(株)丸善納谷商店 取締役専務 納谷太郎氏)	3
⑥	9/20(金)	「コンブ種苗生産について(講義と実験室での観察)」 (北海道大学大学院水産科学研究院 教授 水田浩之氏)	2
⑦	10/19(土)	「種苗生産の現場(種苗の種苗生産・種付けの現場)研修」(南かやべ漁業協同組合常務理事 坂井英文氏) 「コンブの加工工場視察」(同組合 主任 伊豫部卓氏)	2
⑧	11/16(土)	「コンブ水産業に関するグループワークと発表」(地域水産業共創センター 特定専門職員 三瓶真)	5
⑨	12/7(土)	「サーモン養殖生け簀見学研修2・池入れ期」(マルナマ古清商店魚介藻類養殖事業室 松川雅樹氏) 「水産加工工場見学」(マルナマ古清商店総務部 部長 荒川博英氏)	10
⑩	12/14(土)	「サケマス類水産業に関するグループワークと発表」	8



コンブ洗浄体験



サーモン養殖生け簀見学



マコンブの遊走子観察

5.1.2 必修科目:起業家育成演習(全 10 回)

起業家育成演習は、地域産業の特徴や課題を理解するとともに、産学官連携コーディネーターや起業のための基礎知識や戦略の基礎を学ぶ講義・演習である。

「アピールすべきところが明確になり、ピッチの構成の重要な点が分かった。」など、参加者の約 7 割が通常の大学での講義以上に有意義だったとの回答を得た。

<令和6年度 起業家育成演習> 参加実績 延べ人数35人 実人数 13人

NO	開催日	タイトル	受講者
①	9/3 (火)	「北海道域における水産加工企業の現状と課題」(北海道教育大学函館校 教授 孔麗氏)	4
②	9/3 (火)	「函館地域産業の現状と活性化」(函館大学 教授 西村淳氏)	4
③	9/4 (水)	「函館のまちの歴史と現状」(函館大学 教授 田中浩司氏)	2
④	9/4 (水)	「産学官連携コーディネーターとは」(技術士事務所アクアテラス 代表 吉野 博之氏) 「I ターンして起業してみた」(函館ひろめ堂㈱ 専務取締役成田幸大氏)	3
⑤	9/9 (月)	事例紹介1 青森県におけるサーモン大規模養殖事業(地域水産業共創センター教授 福田寛) 事例紹介2 食品開発におけるエビデンスの重要性・地域食品素材を利用した製品開発 事例紹介3 地域企業への乾燥技術や乾燥食材利用・技術による企業支援について (北海道立工業技術センター 研究主幹清水健志氏・研究主査島海滋氏・ 専門研究員小西靖之氏・研究員 塩原愛理氏) 施設見学&グループディスカッション	3
⑥	9/10 (火)	「未来に羽ばたく人材のための 起業と経営入門」・「起業のアイデア創出と ビジネスモデルの策定」(技術戦略マネジメント・オフィス 飛谷 篤実 氏)	6
⑦			7
⑧	9/11 (水)	「シリコンバレーの流儀、イノベーションを考える」・「実践エレベーターピッチ解説と実習指導その1」・「スタートアップ事例研究」・「エレベーターピッチの解説と実習指導その2」(i-BuCLtd.CEO&President 八重樫 馨氏)	3
⑨	9/12 (木)		2
⑩	9/13 (金)	「大学・大学院で学び研究することとスタートアップ」 (産学・地域協働推進機構 特任教授 土屋 努氏)	1



コンブ出汁試飲



試験施設見学



I ターン経験者による講義

なお、本科目(「水産学演習」「起業家育成演習」)の実施にあたっては、令和5年度に実施していたアンケート調査(令和5年度132件)から、受講学生に対するモチベーション分析や要望などを聞き、視察回数を増やすなど、カリキュラムのさらなる充実化と参加学生増加へ向けた取り組みを行った。

5.1.3 選択科目

市内の高等教育機関と連携し、令和6年9月下旬より順次、オンデマンド形式を主とする選択科目の試行開講を開始(6分野7科目)。ひとつの大学だけでは学べない幅広い視野や知識の修得機会の創出を図るとともに、柔軟な受講機会を実現し、学修者本位のカリキュラムを構築した。

また、開講に併せて受講管理システムおよびカリキュラム履修ガイドを整備し、必修科目と合わせた CREEN 人材育成カリキュラムの教育体制を整えたほか、指定したクレジットを取得した者に対して授与するディプロマの整備を行った。その結果、目標から前倒しで令和6年度末に1名のディプロマ(試行中のため修了証)取得者を輩出した。今後も、講義コンテンツ数や内容のさらなる充実化を見据え、さらなる魅力度アップを図る。

＜履修ガイド＞（一部抜粋）



＜令和 6 年度 選択科目一覧＞

開講時期	養殖・水産加工	観光・食産業	物流革新・海外輸出・Withコロナ	AI&IoT	地域資源活用	公共政策論	マーケティング
前期	<u>▲水産物と栄養</u> 1cr/北大提供 (大学院) <u>★水産物栄養学特論</u> 1cr/北大提供	<u>地域経済論Ⅰ</u> 2cr/函大提供	<u>流通論</u> 2cr/函大提供	<u>ロボットの科学技術</u> 2cr/未来大提供			
後期	<u>水産食品安全学</u> 1cr/北大提供	<u>▲観光と食産業</u> 1cr/北大提供 (大学院) <u>★観光食産業序論</u> 1cr/北大提供		<u>数値解析学</u> 1cr/函館高専提供	<u>地球環境と水産養殖</u> 1cr/北大提供	<u>社会と経済の把握</u> 2cr/未来大提供	<u>マーケティング総論</u> 2cr/函大提供
通期	<u>サケマス養殖生産学</u> 1cr/北大提供						



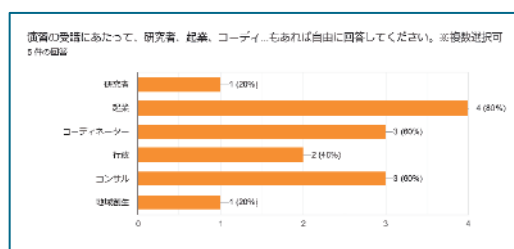
<終了証授与式>



5.1.4 カリキュラムの改良

必修科目 2 科目の各回オンラインアンケート、科目終了後のオンラインアンケートに加えて、必修受講生の生の声を聞くためグループインタビューを実施した。グループインタビュー前の事前インタビューを経て、広報・告知、実施時期や回数といった運営面での改善を得たほか、参加の動機、学びの意義付けや成果、進路選択への影響などについて聞き取りを行い、記録にまとめている。

これらの振り返りデータをもとに令和 7 年度の必修科目の内容等を再検討し、カリキュラムの改良を図った。



事前インタビュー

「演習受講にあたってどの職種に惹かれたか」



受講生へのグループインタビュー(11月16日)

5.2 函館をもっと良いまちに！プロジェクト

CREEN 人材育成プロジェクトの一環として、函館市内の教育分野が異なる高等教育機関に所属する学生が主体となり、函館の水産業を中心とした課題発掘・対策の企画実施を推進する「函館をもっと良いまちに！プロジェクト」を令和5年度より実施継続している。その一環として、CREEN 人材育成カリキュラムの受講前の動機付け、かつ受講後の実践の場を提供することを目的として、令和5年6月に「学生団体 ISARIBI with」を発足させた。

令和6年度は地域活性化の活動として5つのプロジェクトを実施し、令和6年9月に実施した活動報告会においては、各プロジェクトの活動報告のみならず、一般参加者や企業、団体、自治体関係者など、145名の参加者による意見交換が行われ、函館のワクワクする未来について活発な議論が交わされた。

<学生団体 ISARIBI with 令和6年度の活動>

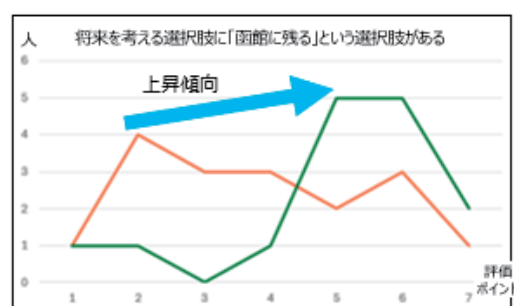
令和6年度 登録学生数 合計 75名

- ・北海道大学:14名 ・函館大学:4名 ・函館工業高等専門学校:15名
- ・はこだて未来大学:16名 ・北海道教育大学函館校:26



令和6年度も、学生自らがプロジェクトを通して、直接地域とつながり、地域活性化に貢献できる共創の場の提供を支援し、参加学生からは、参加前後で実施したアンケート調査から、将来を考えたときに「函館に残る」という選択肢において、活動を経て上昇傾向がみられるなど、地域に根差した活動が図られた。

今後も地域で活動する学生を「地域活性化のための貴重な人材」と捉え、共創センターが持つネットワークや知見を積極的に活用してもらい、活動や報告会等で得られたフィードバックを基に学生がより主体的に活動できる環境づくりや企業・団体との連携を支援し、学生団体の活動をさらに地域に広げることで、起業や地元定着人口の増加、地元産業の活性化に貢献する人材の育成を推進していく。



学生団体「ISARIBI with」活動実施前後での函館に残るという選択肢の有無(7段階評価:7が最も強くあり)に関するアンケート結果

5.3 小中高生への支援

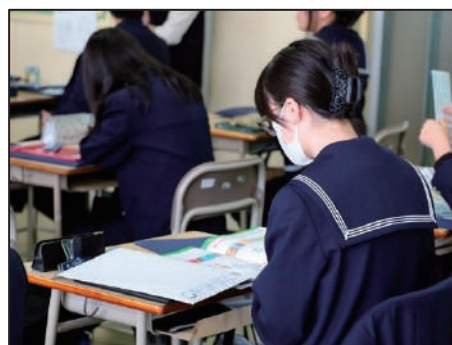
地域の小中高生向けの支援として、「Academic Fantasia」や「職業意識調査(6校約740名)」、「地域連携型オープンキャンパス(6校約153名)」、「リケジョ・カフェ」、「大学院生による研究テーマに関する出前授業」「函館市海洋 STEAM 教育との連携」など、養殖産業を中心とした水産学・海洋学等に関する出前授業や学校訪問対応を行い、地元の高校生等に対して水産業や大学の魅力の訴求や将来像を考えるきっかけづくりの機会提供を行った。令和7年度も小中高生へ対する水産・海洋教育に引き続き貢献して、水産・海洋都市函館の地域振興につなげる。

5.3.1 Academic Fantasia

地元の高校生に対して「養殖漁業」を中心とする水産学・海洋学に対する関心を高める活動を行い、大学の魅力を地域の中高生等に訴求する活動を、北大水産科学研究院として継続的に取り組んでおり、令和6年11月に函館遺愛女子高等学校で出前授業として(講師 大学院水産科学研究院 笠井久会教授)1年生19名に、魚の感染症等に関する講義を実施した。参加学生からは、普段の授業では知る機会のない分野を知り、食はたくさんの人の努力があって成り立っていることを知った、などの発見や意見の声をいただいた。



講義の様子



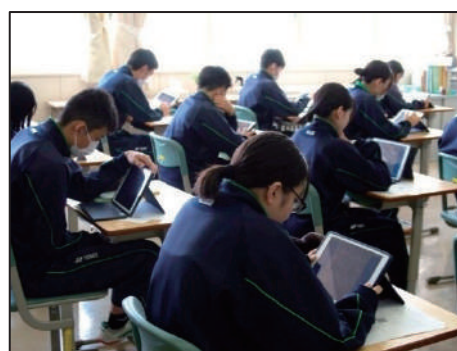
講義の様子

5.3.2 職業意識調査

地元中学・高校生に対して職業意識に関する講義を実施。市内の中高生740名に対して、水産業に関するイメージなどを職業意識調査として実施しながら、漁業水産業に関して学びきっかけづくりを図り、協力校からは継続を検討したいなどの声をいただいた。



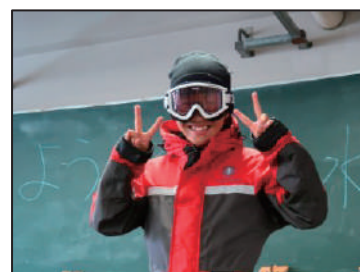
講義の様子



QRによるアンケートを実施

5.3.3 地域連携型オープンキャンパス

地元の中高校生を対象に、研究室見学や実験の一部を体験できる地域連携型オープンキャンパスを実施。大学生と高校生の交流を深め、最先端研究に触れ、地元大学への進学を促すことを目的に令和5年度から継続実施しており、令和6年度は、道南地域の中学校・高校6校が訪問し、153名の学生に研究現場を体験いただいた。



訪問の様子

5.3.4 リケジョ・カフェ

函館市内の高校と協力し令和4年度から開催しており、地元の女子高生が最先端の研究実践に触れ、研究への心構えやモチベーションを高めると同時に、研究者として活躍するために必要な心構えを伝える等、水産業について学術的な視点から地元女子中高生に訴求する取組を継続中である。令和6年度は11月に北海道函館中部高等学校で実施し、参加学生からは将来像を深める機会となった等の声をいただいた。

5.3.5 函館市海洋 STEAM 教育との連携

函館市企画部、函館市内小学校と協働して、函館が海に面した地域であるという特色を生かし、海に関する関心を高めるとともに海洋リテラシーの向上を目的に、海洋 STEAM 教育についての実践を推進した。

○海洋 STEAM 教育における大学院生出前授業

函館市、函館市内小学校と協働して、大学院生による小学生への出前授業を企画・実施。9月26日(木)「イルカ・クジラってなに?」、令和6年10月25日(金)「海藻」について学ぼう!!」を函館市立あさひ小学校で実施。大学院水産科学院の5名の学生が講師を務めた。担当教諭から授業構成案への事前のフィードバックを得ることで、小学生に対する教育だけでなく、講師学生が「教えることを通して学ぶ」教育プログラムの可能性を探索した。

○海洋 STEAM 教育実践発表会

令和6年11月8日(金)に「海洋 STEAM 教育実践発表会」として、函館市立あさひ小学校、同銭亀沢小学校ならびに同南茅部小学校の3校主催で開催された。JAMSTECの小学校向け海洋 STEAM 教材を活用した公開授業の参観のほか、主催校が実践した海洋 STEAM 教育の報告がなされた。意見交流ではが行われ、全国の海洋 STEAM 教材の活用事例紹介や同教材の有効性ならびに海洋 STEAM 教育が函館の地の利を活かしながら初等教育から高等教育へつなぐ発展について意見交換がなされた。共創センターからは、福田覚教授が講評を担当し、地域の教育関係者との意見交流に参画した。

海洋 STEAM 教育については、引き続き函館市、教育委員会、学校、JAMSTEC と連携を図りながら、本学や共創センターの特色を生かし、事業を運用するためのリソースについて検討・調整を図りながら持続的な活動になるよう取り組んでいく。



出前授業の実施の様子

5.3.6 中高生への取り組み一覧(一部再掲)

<実施一覧(共創センター主催分)>

学校名	対象	実施内容
木古内町立木古内中学校	3年生25名ほか	6月12日(水)、海洋のSDGsに関係する総合学習の第1回目として職業意識調査アンケートと大学院生名畑さんの講演を実施。 7月18日(木)SDGsの総合学習として、体験学習や養殖現場の見学、授業「海の持続可能な利用」を実施。
北海道函館水産高等学校	1年生30名	6月25日(火)、職業意識調査アンケートと大学院生名畑さんの講演を実施。
八雲町立落部中学校	1・2年生28名	10月17日(木)、「磯焼けとウニ養殖～持続的な水産業の構築を目指して～」と題して、八雲町の海で今何が起きているのかを理解し、その課題にどう対応していくかについて大学院生の指田さんが講演。
函館市立巴中学校	2年生70名 2年生約140名	11月7日(木)、SDGsの達成目標14番「海の豊かさを守ろう」に関連付けた「函館の水産資源の実態と、海の豊かさを守るために中学生としてできること」をテーマとして、巴中学校からの依頼により三瓶特定専門職員が講演。 1月21日(火)、漁業意識調査アンケート、およびアンケートの回答を基にした今後の活動に関するモチベーションの保ち方について大学院生の名畑さんが講演。
北海道函館中部高等学校	1・2年生337名	11月28日(木)、職業意識調査アンケート、および特講コース受講の1年生40名へ大学院生名畑さんと関さんによる講演を実施。
北海道知内高等学校	2年生44名	12月16日(月)、職業意識調査アンケート、および大学院生名畑さんによる講演を実施。
函館遺愛女子高等学校	1年生189名	12月18日(水)、職業意識調査アンケート、1年生特進コース50名へ大学院生名畑さんと関さんによる講演を実施。

<実施一覧(他組織との共同実施分)>

学校名	対象	実施内容
北海道函館中部高等学校	1年生37名 および 教員3名	7月9日(火)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。学部の紹介や細川雅史教授による「コンブなどの大型藻類の研究」に関する講和や大学院生からの研究紹介・進路などの紹介を行ったほか、校内の実験棟や水槽センターの見学会を実施。
江差町立江差中学校	3年生32名 および 教員5名	7月12日(金)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。学部の紹介のほか、大学院生からの研究紹介や進路のなどの紹介を行ったほか、水槽センターなどのキャンパスツアーを実施。
函館市立亀田中学校	2年生9名 教員1名	10月10日(木)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。学部と函館マリカルチャープロジェクトの紹介後、大学院生2名より研究内容を紹介。その後キャンパスツアーを行い、水産科学未来人材育成館1階ウエットラボや水槽センター、水産生物標本館を見学。エックス線透視装置による魚の内部観察や人工イクラの作製も行い、大学の実験を体験。
北海道南茅部高等学校	2年生3名 教員2名	10月17日(木)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。学部と当センターの取り組みについて紹介し、大学院生2名より研究内容を紹介。その後キャンパスツアーを行い、水産科学未来人材育成館1階ウエットラボと先端環境制御実験棟を見学し、大学の実験を体験。
北海道教育大学 附属函館中学校	1年生7名 教員1名	11月21日(木)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。生徒は、「はこだての街の宝は何か?」という授業の探究課題を解決するために海の環境に注目。水産学部の教員へ質問し話を聞くことで課題解決の糸口が見つかるのではないかと生徒自身が考え、依頼があったことから受け入れを行った。大木敦之教授研究室や先端環境制御実験棟、水産科学館、中屋准教授研究室を見学。中屋准教授と所属学生より研究内容の説明があり、その後質問時間を設けた。
函館白百合 学園高等学校	特別進学 コース 1・2年生 34名 教員3名	11月22日(金)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。「1年生は文系、理系の選択と大学での学びについて進路研究している。2年生はすでに文理選択済みだが、文系の生徒に経済分野に関心を持っている生徒が多く、水産学部では経済にも関連する研究もしているので生徒の視野を広げるきっかけになれば」という高校からの依頼があったことから受け入れを行った。細川雅史教授と佐々木貴文准教授から研究の紹介と、大木敦之教授より学部の紹介があった。実験研究棟の資源機能化学科の学生実験見学や人工イクラの作製も行い、大学の実験を体験。
函館市立桔梗中学校	2年生40名 教員2名	11月28日(木)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。学部の研究内容紹介後にキャンパスツアーを行い、大木教授研究室や水産科学未来人材育成館、水産科学標本館を見学。
市立札幌旭丘高等学校	1年生22名	12月6日(金)、大学での学びの様子を体験する「北海道大学水産学部学校訪問」を実施。旭丘高校の先生が高校の課題研究の時間で海洋データ解析を生徒に提示するなど海洋学に対する関心が強く、大木淳之教授へ依頼があったことから受け入れを行った。函館キャンパスにて大木教授より学部と研究内容を紹介後、大学院生が学内や研究室を案内。次に函館国際水産・海洋総合研究センターへ移動し、附属練習船うしお丸見学とコンブに関する大学の実験を体験。

5.4 LASBOS との連携

オンライン教材を提供し、早期に学生の研究指向性を高め、海のトップサイエンティストとなる人材を育成する「海のトップサイエンティストの早期発掘と育成」を目指した教育プログラム(北海道大学機能強化促進事業 2019 - 2023)をきっかけに設立した教育プラットフォーム LASBOS Moodle を活用し、CREEN 人材育成カリキュラムのオンデマンド教材管理、受講者・受講状況・成績の管理を行えるよう、整備・運用しているほか、LASBOSオンラインコンテンツ・LASBOSカード小中高生、地域、企業等を対象とした幅広い研究教育情報の発信に活用している。令和 7 年度も LASBOSを活用し、各連携事業の効果の最大化をはかる。



5.4.1 アウトリーチ

LASBOS Moodle、LASBOS YouTube、LASBOS カードからなる LASBOS コンテンツを用いて、水産科学研究院、共創センターの PR、および海や水産に関する教育研究情報のアウトリーチを継続して実施している。

LASBOS カード配布場所(常設展示)

函館市内：函館市国際水産・海洋総合研究センター、函館市北洋資料館、函館市北方民族資料館、函館市文学館、朝市(一時的に試験配布)、函館キャンパス

札幌キャンパス：北図書館、高等教育推進機構(学生のみ)、総合博物館、環境科学院、附属図書、インフォメーションセンター



LASBOS カード

LASBOS カード・クリアファイルを配布した事業・学校訪問等

学校訪問(函館中部高等学校、江差中学校、函館亀田中学校、南茅部高等学校)、学校説明会・出前講義・進学説明会等(帯広柏葉高等学校、釧路湖陵高等学校、八戸北高等学校、札幌東高等学校、市立函館高等学校、函館中部高校、滝川高等学校、あさひ小学校、函館巴中学校)、研究室訪問(札幌西高等学校、放送大学、シンガポール国立大学サマーコース、CREEN 人材育成カリキュラム(水産学演習・起業家育成演習)、1年生向けガイダンス(札幌キャンパス)、オープンキャンパス、学生団体 ISARIBI with 報告会(令和6年9月29日)、北大祭、北水祭、北水祭実行委員会による七夕企画、マリンフェスティバル(共創センター展示)、札幌市消費者協会と北海道定置漁業協会の共催「食育」イベント「秋さけの”ふしぎ”にせまる ～さけから学ぶ、命のつながり～」、北水ドローン研究会 木古内ドローン体験会、札幌市立北九条小学校 PTA 主催イベント「プロムナードナイン」

また、これらのコンテンツを主体的に利用する事例が見られ始め、令和6年度は「秋さけの”ふしぎ”にせまる ～さけから学ぶ、命のつながり～」、あさひ小学校での大学院生による教材利用、北水祭実行委員会、水産学部教務担当(学校説明会や進学説明会で利用)、札幌市立北九条小学校 PTA 行事プロムナード9(北大教職員保護者)など、イベントや授業などで活用いただいている。



大学院生出前授業(あさひ小、9/26)における授業テーマに関連する LASBOS カードの配布



北水祭 PR のための七夕企画での配布



札幌市立北九条小学校 PTA 行事プロムナード9での児童へのカード配布

5.5 その他

5.5.1 日本サーモンファーム株式会社視察研修

令和6年5月31日(金)～6月1日(土)、CREEN 人材育成プログラムの一環として「青森県サーモン養殖場視察研修」を実施した。

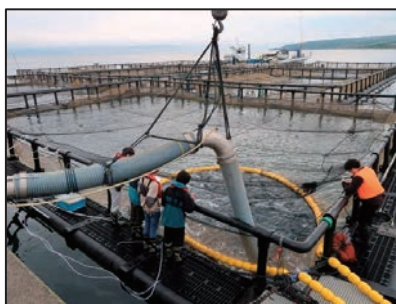
研修では、日本サーモンファーム株式会社(JSF) 代表取締役社長 鈴木 宏介 氏(共創センタークロスアポイントメント特任准教授)を講師に、青森県にある JSF 養殖場の1泊2日視察研修を実施した。

青森県産サーモントラウト(ニジマス)養殖としてふ化から成魚まで一貫養殖体制を整備し、約1,600トンもの国内最大級のサーモントラウト海面養殖生産量を達成している先端技術を導入した養殖場を視察できる大変貴重な機会として、多くの学生から参加申込があった。

参加学生からは、「感動しました」「フィッシュポンプを使った水揚げの様子や、システム化された効率的な生産管理体制に驚いた」「JSF 社員の方々へ直接質問でき、実習や研究だけでは知らなかった貴重なお話をたくさん聞かせて頂いた」という感想があり、今後もこのような潜在的な需要を取り込みながら、CREEN 人材育成プログラムの構築を推進していく。



視察現場での講師からの説明



視察現場の見学の様子

5.5.3 大学院生向けの取り組み

令和6年12月12日(木)、博士後期課程学生、博士後期課程進学希望の修士学生を対象とした交流イベントを水産科学未来人材育成館で開催。水産科学院 OB である石原 学 氏による講演や参加者による交流会を実施し、石原氏から、博士課程在籍時に身についたこと、社会に出てからそれがどう役立ったかなどをお話いただき、参加者からは「同じ場所にしながら交流がなかった人と交流をしてコネクションを作ることができた」などの声があった。

本試みは令和6年度のはじめての企画となるが、今後も参加者からの声を基によりよい機会を提供できるよう継続していく。



講演の様子



交流会の様子

5.5.4 起業学生への支援

起業を検討している学生に対して構想や計画をヒアリングし、地域の企業や自治体とつなげる支援を実施した。

令和6年度においては、「未利用資源を原料とした家畜用飼料添加剤の開発」により起業を目指す学生（北海道大学水産科学研究院修士1年）に対して、フィールドとする鹿部町の町長や水産経済課などの関係者との橋渡しや羊による実証実験事業の調整、補助金申請の支援などを行った。

6.その他の活動



6.1 産学・地域協働推進機構及び URA との連携

共創センターで関わる、企業との学術コンサルティングや秘密保持契約の締結、知財の取り扱いなどについて、北海道大学産学・地域協働推進機構(以下「産地機構」という。)や URA(University Research Administrator)と情報交換を行い、水産に関する問い合わせ対応や函館地域での連携のほか、研究費情報の共有などを継続している。

6.2 ホームページ掲載実績、報道実績

6.2.1 ホームページ掲載実績

共創センターのホームページへの掲載実績として、令和 6 年度は 140 件となった。

No.	年月日	分類	タイトル等
1	2024.4.19	お知らせ	「国立大学法人北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学 院・水産学部及び国立大学法人北方生物圏フィールド科学セン ターと知内町との三者包括連携協定締結」
2	2024.4.22	良いまち PJ ISARIBIwith	学生団体 ISARIBI with「Tomoshibi Pitch」開催
3	2024.4.30	CREEN 人材、良いまち PJ ISARIBI with	「Tomoshibi Pitch 2024 開催レポート①」が note で公 開されました
4	2024.5.9	CREEN 人材、良いまち PJ ISARIBI with	「Tomoshibi Pitch 2024 開催レポート②」が note で公 開されました
5	2024.5.14	CREEN 人材、良いまち PJ ISARIBI with	【学生向け】令和 6 年度 CREEN 人材育成プログラム 青森県 サーモン養殖場視察研修 参加者募集について(2024 年 5 月 31 日～6 月 1 日)
6	2024.5.21	CREEN 人材	ISARIBI with 代表 高澤佳乃さんが北海道新聞で紹介され ました
7	2024.5.23	おしらせ	韓国チェジュ大学より コンブ加工視察研修生 受け入れ
8	2024.5.27	おしらせ	アフリカ一周挑戦 北大水産学部の高澤共生さんを応援！
9	2024.5.27	おしらせ	函館短期大学付設調理製菓専門学校のレストランサービス実 習に出席
10	2024.5.31	CREEN 人材、おしらせ	水産学演習 1～5 回目募集開始
11	2024.6.4	CREEN 人材、おしらせ	トップレベル人材招へい トム・オル・ニルセン先生講演会
12	2024.6.10	CREEN 人材、イベント情報、お しらせ	大船稲荷神社例大祭 山車の曳き子募集
13	2024.6.17	CREEN 人材	青森サーモン養殖場 函館の大学生視察研修
14	2024.6.18	CREEN 人材、おしらせ	【受講者開始】令和 6 年度水産学演習 6 月 29 日(土)、8 月 29 日(木)開講分

No.	年月日	分類	タイトル等
15	2024.6.19	CREEN 人材	SDGsに関わる授業 木古内中総合学習で大学院生が講演
16	2024.6.20	CREEN 人材	トム・オル・ニルセン先生講演会開催 トップレベル人材招へい
17	2024.6.21	CREEN 人材	水産学演習1～3回目開催
18	2024.6.21	CREEN 人材	南かやべ大船稲荷大祭 ISARIBI with の学生も参加
19	2024.6.26	お知らせ	ノルウェーの大学生 北海道大学水産学部でサマーコース受講
20	2024.6.28	お知らせ	共創センターニュース vol.001
21	2024.7.1	良いまち PJ ISARIBI with	カフェオープン 学生団体 ISARIBI with
22	2024.7.1	おしらせ	AQSim に関する記事が北海道新聞に掲載されました
23	2024.7.3	CREEN 人材	水産学演習4回目を開催しました
24	2024.7.4	CREEN 人材	北海道函館水産高等学校の生徒へ大学院生出前授業
25	2024.7.9	おしらせ	豊頃町大津漁港建設利用推進期成会 視察研修
26	2024.7.10	おしらせ	函館中部高校の学生が水産学部訪問
27	2024.7.17	良いまち PJ ISARIBI with	学生団体 ISARIBI with の進捗共有会を開催します
28	2024.7.18	おしらせ	江差中学校の生徒が水産学部訪問
29	2024.7.19	おしらせ	産学連携学会第 22 回大会 愛媛大会に参加
30	2024.7.22	おしらせ	乙部町を視察しました
31	2024.7.23	CREEN 人材、良いまち PJ ISARIBI with	学生団体 ISARIBI with の活動 PR 函館マリンフェスティバル 2024
32	2024.7.25	おしらせ	地域と連携した教育～あさひ小学校で大学生による出前授業企画
33	2024.7.29	CREEN 人材	海に関わる SDGs 木古内中総合学習成果発表
34	2024.7.30	おしらせ	BLUE ECONOMY EXPO@駿河湾に参加
35	2024.7.31	おしらせ	J-PEAKS キックオフイベントシンポジウムが開催されました
36	2024.8.5	CREEN 人材、おしらせ	【受講者募集】令和 6 年度水産学演習(⑥～⑩)
37	2024.8.5	おしらせ	共創センターニュース vol.002
38	2024.8.6	良いまち PJ ISARIBI with	学生団体 ISARIBI with 進捗共有会が開催されました
39	2024.8.6	CREEN 人材、おしらせ	【受講者募集】R6 年度起業家育成演習
40	2024.8.16	おしらせ	オープンキャンパスで北海道大学地域水産業共創センターを紹介しました
41	2024.8.20	おしらせ	産業教育実習助手資質向上事業に協力しました
42	2024.8.23	おしらせ	REREC キックオフイベントが開催されました
43	2024.8.23	おしらせ	共創教育企画として北水ドローン研究会が木古内で活動を行いました
44	2024.8.28	おしらせ	全学停電の影響について(サイトアクセス不可の場合あり)

No.	年月日	分類	タイトル等
45	2024.8.30	お知らせ	共創センターニュース vol.003
46	2024.9.3	イベント情報、良いまち PJ ISARIBI with	学生団体 ISARIBI with 活動報告会を開催します
47	2024.9.4	CREEN 人材	水産学演習 第5回目を実施しました
48	2024.9.6	CREEN 人材	【受講者募集】令和6年度 CREEN 人材育成カリキュラム(試 行)
49	2024.9.9	お知らせ	産学官連携クリエイティブネットワーク「25 周年記念事業『函 館市への提言』に向けた意見交換会
50	2024.9.10	CREEN 人材	令和6年度 CREEN 人材育成カリキュラム「社会と経済の把 握」「マーケティング総論」の受講登録期限について
51	2024.9.17	良いまち PJ ISARIBI with	大門学生祭復活 クラウドファンディング挑戦中
52	2024.9.17	良いまち PJ ISARIBI with	「函館をもっと良い街に！学生団体 ISARIBI with の現在 地！～進捗共有会を終えて～」が note で公開されました
53	2024.9.17	CREEN 人材、メディア情報	R6 年度 水産学演習・起業家育成演習がメディアで紹介され ました
54	2024.9.18	CREEN 人材	令和 6 年度 起業家育成演習を実施しました
55	2024.9.19	お知らせ	共創教育企画として北水ドローン研究会が奥尻高校実習のド ローン撮影実践を行いました
56	2024.9.26	CREEN 人材	水産学演習 第 6 回目を実施しました
57	2024.9.30	お知らせ	共創センターニュース vol.004
58	2024.10.1	イベント情報、お知らせ	【参加者募集】ドローン体験会
59	2024.10.3	イベント情報	函館をもっと良いまちに！プロジェクト「学生と地域の共創の 新しいカタチ」ポスター展示を行います
60	2024.10.4	お知らせ	JICA 国際研修に協力しました
61	2024.10.8	イベント情報	【教育関係者 参加者募集】海洋 STEAM 教育実践発表会
62	2024.10.9	イベント情報	【第 62 回北水祭】LASBOS カードラリーde 射的大会&共創 センター紹介パネル展示を実施します
63	2024.10.9	CREEN 人材	IDE 大学セミナーで CREEN 人材育成プログラムの取組みを 紹介
64	2024.10.9	お知らせ	福田覚教授がキャンパス・コンソーシアム函館の集中講義で講 義しました
65	2024.10.11	お知らせ	令和 6 年度合同 SD 研修会が開催されました
66	2024.10.11	お知らせ	福田教授が「県産サーモン養殖確立支援事業成果報告会」で講 演しました

No.	年月日	分類	タイトル等
67	2024.10.11	お知らせ、良いまち PJ ISARIBI with	「函館をもっと良いまちに！プロジェクト 学生と地域の共創の新しいカタチ～学生団体 ISARIBI with の活動を囲んで～」(学生団体 ISARIBI with 活動報告会)を開催しました
68	2024.10.15	お知らせ	【第 62 回北水祭】LASBOS カードラリーde 射的大会&地域水産業共創センター紹介パネル展示を実施しました
69	2024.10.17	お知らせ	地域と連携した教育～あさひ小学校で大学院生による出前授業を実施(9 月 26 日)
70	2024.10.17	お知らせ	地域と連携した教育～遺愛女子高等学校での出前授業を実施
71	2024.10.18	お知らせ	函館市立亀田中学校の生徒が水産学部を訪問しました
72	2024.10.21	お知らせ	共創教育企画として北水ドローン研究会が木古内でドローン体験会を開催しました
73	2024.10.28	CREEN 人材	水産学演習 7 回目を実施しました
74	2024.10.30	お知らせ	北海道南茅部高等学校の生徒が水産学部を訪問しました
75	2024.10.31	お知らせ	地域と連携した教育～あさひ小学校で大学院生による出前授業を実施(10 月 25 日)
76	2024.10.31	お知らせ	共創センターニュース vol.005
77	2024.11.01	CREEN 人材	【重要】後期開講科目「水産食品安全学」の受講期限について (CREEN 人材育成カリキュラム)
78	2024.11.1	良いまち PJ ISARIBI with	「【プロジェクト紹介①】未来の希望を可視化する。活きる空きプロジェクト」が note で公開されました
79	2024.11.7	良いまち PJ ISARIBI with	「【プロジェクト紹介②】遊びと学びをグラデーションで。蔵レモネードプロジェクト」が note で公開されました
80	2024.11.12	CREEN 人材	CREEN 人材育成カリキュラム 開講日案内
81	2024.11.12	お知らせ	北海道大学アカデミックファンタジスタ事業(出張講義@遺愛女子高等学校)を実施しました
82	2024.11.14	お知らせ	海森サステナビリティセミナー2024「ウニの現状と藻場再生への取組を考える」に参加しました
83	2024.11.14	お知らせ	落部中学校で北大水産大学院生による出前授業を実施しました
84	2024.11.15	お知らせ	海洋 STEAM 教育実践発表会が開催されました
85	2024.11.18	お知らせ	産学官連携クリエイティブネットワークとの第 2 回地域懇話会を実施しました
86	2024.11.18	イベント情報	「水産科学院生博士学生ビジョン形成のための交流会」を開催します

No.	年月日	分類	タイトル等
87	2024.11.18	お知らせ	【プレスリリース】自動航行型無人潜水機(AUV)と音響技術を組み合わせた沿岸漁場総合測定システムの実証実験～大学院水産科学研究院が海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業に採択～
88	2024.11.19	CREEN 人材	水産学演習 第8回目を実施しました
89	2024.11.20	お知らせ	ビジネス EXPO「第 38 回北海道 技術・ビジネス交流会」に出展しました
90	2024.11.26	お知らせ	三瓶特定専門職員が「函館市立巴中学校 SDGs 講演会」の講師を務めました
91	2024.11.26	お知らせ	プレ大門学生祭が開催されました
92	2024.11.29	お知らせ	共創センターニュース vol.006
93	2024.11.29	お知らせ	北海道教育大学附属中学校の生徒が水産学部を訪問しました
94	2024.11.30	お知らせ	地方大学・地域産業創生交付金活用事例として内閣府ホームページで紹介されました
95	2024.12.6	お知らせ	IFS2024(第 12 回国際水産シンポジウム)に J-PEAKS「リジェネラティブ水産業による持続的食料生産システム」がブース出展しました
96	2024.12.6	良いまち PJ ISARIBI with	【プロジェクト紹介③】99 にともしびプロジェクト【プロジェクト紹介④】スマイルマッププロジェクトが note で公開されました
97	2024.12.6	お知らせ	令和 6 年度 特別セミナー開催を支援しました
98	2024.12.10	お知らせ	函館白百合学園高等学校の生徒が水産学部を訪問しました
99	2024.12.11	CREEN 人材	水産学演習 第9回目を実施しました
100	2024.12.16	CREEN 人材	令和 6 年度 CREEN 人材育成事業トップレベル人材招へい講演会を開催します
101	2024.12.16	お知らせ	NoMaps 釧路・根室 2024 のカンファレンス 5「地域養殖ビジネスの展望」に登壇しました
102	2024.12.18	お知らせ	函館市立桔梗中学校の生徒が水産学部を訪問しました
103	2024.12.18	お知らせ	14TH JOINT INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON FOOD SCIENCE AND TECHNOLOGY で秋田晋吾助教が J-PEAKS について紹介しました
104	2024.12.19	お知らせ	令和 6 年度「令和の里海づくり」モデル事業(環境省)の実施を共催しました
105	2024.12.20	CREEN 人材	水産学演習 第 10 回目を実施しました

No.	年月日	分類	タイトル等
106	2024.12.24	お知らせ	「水産科学院生博士学生ビジョン形成のための交流会」を開催しました
107	2024.12.25	お知らせ	共創センターニュース vol.007
108	2025.1.6	お知らせ	市立札幌旭丘高等学校の生徒が水産学部を訪問しました
109	2025.1.9	良いまち PJ ISARIBI with	学生団体 ISARIBI with「【プロジェクト紹介⑤】大門学生祭復活プロジェクト」「代表インタビュー」の記事が note で公開されました
110	2025.1.9	良いまち PJ ISARIBI with	学生団体 ISARIBI with 大望年会在開催されました
111	2025.1.10	お知らせ	北海道洋上風力アカデミーが開催されました
112	2025.1.14	お知らせ	北海道函館中部高等学校での理系未来創造プロジェクト「リケジョカフェ」をコーディネートしました
113	2025.1.15	お知らせ	北海道函館中部高等学校・函館遺愛女子高等学校での「職業意識調査アンケート」と「大学院生による出前授業」を実施しました
114	2025.1.17	お知らせ	北海道知内高等学校での「職業意識調査アンケート」と「大学院生による出前授業」を実施しました
115	2025.1.27	お知らせ	トップレベル人材招へい講演会を開催しました
116	2025.1.30	お知らせ	長崎大学 持続可能な養殖事業の実現を目指す産学連携プロジェクト「ながさき BLUE エコノミー」の拠点 高島水産試験所を視察しました
117	2025.1.30	お知らせ	函館市立巴中学校での「職業意識調査アンケート」と「大学院生による出前授業」を実施しました
118	2025.1.31	お知らせ	共創センターニュース Vol.008
119	2025.2.10	お知らせ	自動航行型無人潜水機(AUV)と音響技術を組み合わせた沿岸漁場総合測定システムの実証実験を大瀬沖・日浦沖で実施しました
120	2025.2.14	お知らせ	令和6年度(2024年度)第4回 函館西部まちぐらし共創サロンで学生団体 ISARIBI with 活きる空きプロジェクトの実行メンバーが取り組みを発表しました
121	2025.2.19	お知らせ	コンブで育った羊肉給食「おいしい！」北大水産科学院修士1年辻井さんが鹿部町立鹿部小学校を訪問しました
122	2025.2.19	お知らせ	北海道議会経済委員会へ北海道大学地域水産業共創センターの取り組みを紹介しました

No.	年月日	分類	タイトル等
123	2025.2.21	お知らせ	J-PEAKS で実施している「リジェネラティブ水産業による持続的食料生産システム」に関する研究フィールド現地視察が行われました
124	2025.2.26	お知らせ	ベルゲン大学 Ivar Rønnestad 教授が来学しました
125	2025.2.27	お知らせ	学生団体 ISARIBI with99 にともしびプロジェクトが「はこだてフードフェスタ 2025」に出店しました
126	2025.2.28	お知らせ	共創センターニュース vol.009
127	2025.3.6	お知らせ	共創センターニュースが隔月で発行されます
128	2025.3.10	CREEN 人材	【CREEN 人材育成カリキュラム】令和 7 年度 受講者の募集を開始しました
129	2025.3.12	お知らせ	共創教育企画として北水ドローン研究会が木古内でフィールドワーク(ドローン操作および空撮トレーニング)を行いました
130	2025.3.14	お知らせ	島根大学 次世代たたら協創センターを視察しました
131	2025.3.17	CREEN 人材	函館市長と函館商工会議所の会頭より、CREEN 人材育成カリキュラムへ応援メッセージをいただきました
132	2025.3.18	良いまちPJ ISARIBI with	北海道イノベーションウィーク Donan Innovation Gathering(DIG)が開催されました
133	2025.3.18	お知らせ	令和 6 年度(2024 年度)産学官連携フォーラムに福田教授が登壇しました
134	2025.3.19	お知らせ	令和 6 年度(2024 年度)函館市水産学連携交流会が開催されました
135	2025.3.19	CREEN 人材	カリキュラム説明会を実施します【4 月 4 日(金)】
136	2025.3.19	CREEN 人材	カリキュラム必修科目等の受講登録の締切について
137	2025.3.21	お知らせ	函館マリカルチャープロジェクトイベントで CREEN 人材育成プログラムを紹介しました
138	2025.3.21	お知らせ	学生団体 ISARIBI with0 次総会が開催されました
139	2025.3.31	お知らせ	産学官連携クリエイティブネットワークによる函館市の「地域経済の未来」に対する提言書手交式が執り行われました
140	2025.3.31	お知らせ	道南(一部道央)の各自治体を訪問し、現状や課題をヒアリングさせていただきました

6.2.2 報道実績

共創センターの活動等(はこだてマリカルチャープロジェクトに関するものを含む)について、報道で取り上げられたもの、プレスリリースしたものなど、延べ 57 回の報道実績があった。中でも、「5. CREEN 人材育成プログラムの企画・運営」に関するものが多く、全体の 8 割(学生団体 ISARIBI with に関するものは 23 件あり、全体の 4 割)となっており、地域での活動について取り上げていただいた。

No.	年月日	情報 カテゴリー	メディア名	タイトル等
1	2024.4.11	新聞	北海道新聞 (函館・道南版)	漁業振興図る包括連携協定 知内町と北大
2	2024.4.18	新聞	北海道新聞(函館版)	函館の学生活気の風起こす 団体「イサリビウィズ」が 5 事業
3	2024.4.18	新聞	函館新聞	漁業課題解決に知見活用 知内町と北大2研究機関が連携協定
4	2024.4.18	新聞	函館新聞	地域活性化へプロジェクト発表 ISARIBI with がイベント
5	2024.5.11	TV	NHK 北海道	「おはよう北海道土曜プラス」特集:「消滅可能性自治体」となった函館市。若者流出を食い止められるのか、その模索を取材。
6	2024.5.16	新聞	北海道新聞 (函館・道南版)	笑顔 函館発 学生団体「イサリビウィズ」代表 高沢佳乃さん
7	2024.6.12	新聞	北海道新聞(1 面)	白老町、ホッケ陸上養殖 寄生虫心配なし 刺身 OK
8	2024.6.26	新聞	北海道新聞(社会面)	生食ホッケ 量産へ一歩 白老町、陸上養殖を開始
9	2024.6.28	新聞	函館新聞	いかぼっぼ／北大大学院生が水産高で出前授業
10	2024.7.2	新聞	北海道通信日刊教育 版	函館水産高 北大院生が出前授業 困ったときは発想転換を 職業観を新路のヒントに
11	2024.7.22	新聞	函館新聞(1 面)	函館の学生団体 5 事業を推進 地域活性若者の力で
12	2024.7.23	新聞	北海道新聞 (函館・道南版)	レモネード販売 児童と 函館の学生団体がプロジェクト
13	2024.8.17	新聞	北海道新聞(函館・道 南版)	古民家「キメラ」居ながらリノベ 民博施設開く計画も 明治、大 正、昭和の 3 棟一体構造 函館・若瀬さん
14	2024.8.28	新聞	函館新聞	青柳小夏祭り盛り上がる 児童、学生、地域市民が交流
15	2024.8.30	TV	NHK 北海道	ホットニュース道南
16	2024.8.31	新聞	北海道新聞 (函館・道南面)	コンブ加工、流通 知識深めた 函館北大、長崎大生ら学習
17	2024.9.2	新聞	函館新聞	北大共創センターが演習 若者の地域定着狙い 水産業専門人 材育成へ
18	2024.9.4	新聞	函館新聞	北大地域水産業共創センターが集中講義 地域産業の現状学ぶ 学生、起業家精神を身に付ける

No.	年月日	情報 カテゴリー	メディア名	タイトル等
19	2024.9.4	新聞	北海道新聞 (函館・道南面)	蔵レモネード西部バル出店(函館市内の小学生ら考案)
20	2024.9.9	新聞	週刊水産新聞 (P4)	ホッケ 陸上養殖 3 か年で体制確立目指す成果見える事業 自前でコスト削減 白老町
21	2024.9.11	新聞	函館新聞	団体「いさりびウィズ」学生運営バー開店 イベントも企画 地域課題解決挑む場に
22	2024.9.25	新聞	函館新聞	大門祭復活へ支援を 30 日まで学生がクラファン実施「地域交流の土台作りに」
23	2024.9.25	その他	函館経済新聞	函館の学生ら、コロナ禍で途絶えた「大門祭」復活目指す CF で支援呼びかけ
24	2024.9.27	新聞	北海道新聞 (函館・道南版)	イルカとクジラ生態学が 北大院生、あさひ小で授業
25	2024.10.7	新聞	函館新聞	学生目線で函館活性化考える いさりびウィズが活動報告
26	2024.10.14	新聞	北海道新聞	身近な海を学ぶ教育 北大と連携 函館市高丘小学校長 若林慎也さん(学び eye 先生十色)
27	2024.10.20	新聞	北海道新聞	海の環境や保全学ぶ 函館で親子がごみ拾い
28	2024.10.31	新聞	函館新聞	来夏復活の足掛かりに 3 日にプレ大門学生祭 ステージや模擬店も
29	2024.11.2	新聞	北海道新聞	「大門学生祭」復活へ
30	2024.11.5	新聞	函館新聞	プレイバントにぎわう 大門学生祭来夏復活へ 地域のつながり再発見
31	2024.11.5	新聞	函館新聞	児童、函館の真昆布を学ぶ 北大院生、あさひ小で授業
32	2024.11.10	新聞	北海道新聞	無人潜水機で漁場調査 函館市の企業に補助 効率化へ実証
33	2024.11.13	TV	HBC 北海道放送	今日ドキッ！
34	2024.11.13	その他	Yahoo！ニュース	国内生産量の約 9 割を占める北海道のコンブがいまピンチ 海水温上昇などで激減する生産量 研究者も人気ラーメン店も危機感を募らせる中、コンブの資源回復を目指す取り組みも..
35	2024.11.15	新聞	北海道新聞	「大門学生祭」よみがえれ 函館市内の北大生ら仲間募集 コロナ禍で中止 来夏開催目指す
36	2024.11.15	新聞	北海道新聞	海のフィールドツアー2024in はこだて
37	2024.11.16	新聞	北海道新聞道南版 (みなみ風)	海の豊かさを守るには？(函館巴中が講演会)

No.	年月日	情報 カテゴリー	メディア名	タイトル等
38	2024.11.24	新聞	北海道新聞	函館の資源「海」大切に(市内3小学校でSTEAM教育)
39	2024.11.26	新聞	北海道新聞(釧路・根室版)	サケ養殖テーマに意見交換(釧路 ビジネス創出目指すイベント)
40	2024.12.1	新聞	函館新聞	水産学部の魅力紹介 北大地域水産業共創センター 桔梗中生招きキャンパスツアー
41	2024.12.10	新聞	北海道新聞(渡島檜山版)	海の環境粘土使い学ぶ 知内町漁港に沈める作品造形
42	2024.12.12	新聞	函館新聞	函館市議会一般質問 一問一答(海洋 STEAM 教育)
43	2024.12.12	新聞	北海道新聞(函館版)	STEAM 教育全小中に拡大へ
44	2024.12.17	新聞	北海道新聞(函館版)	「海洋学」うしお丸で体感 函館 札旭丘高生が見学
45	2024.12.23	新聞	函館新聞	NEWS 細見／来年見据え今年を総括 いさりびウィズ 若い力で地域盛り上げる
46	2025.1.10	雑誌	機関紙 NETTNo.127	ほくとう地域における水産業の再活性化と大学の役割
47	2025.1.16	新聞	北海道新聞(函館版)	笑顔函館発 北大地域水産業共創センター職員 五十嵐絵美さん
48	2025.1.24	新聞	函館新聞	まちづくりの輪広げよう(来月8日に西部地区「共創サロン」6団体が取り組み紹介)
49	2025.2.1	新聞	北海道新聞(函館版)	コンブ餌の羊肉「おいしい！」鹿部小中などで給食に 北大水産院生の研究成果
50	2025.2.6	新聞	函館新聞	コンブ羊美味しい 鹿部産、ガニアシえさに 地元給食に登場
51	2025.2.9	新聞	(函館版・渡島檜山版)	八雲町・北大水産学部 5月から イトウ海面養殖へ試験 食用目的 実現なら世界初
52	2025.2.12	新聞	北海道新聞(函館版)	西部地区活性化の活動紹介 函館 官民6団体が「共創サロン」
53	2025.2.15	新聞	函館新聞	西部地区の活性化考えるまちぐらし共創サロン 6団体が取り組み発表
54	2025.2.23	新聞	函館新聞	22、23日「はこだてフードフェスタ」道南のグルメ集結 マグロ解体など企画多彩
55	2025.3.13	新聞	函館新聞	道南の味覚求め盛況 はこだてフードフェスタ開幕
56	2025.3.20	新聞	北海道新聞(経済面)	養殖サーモン 端境期に活路(実証実験生残率90%超に向上)(根釧 economy)
57	2025.3.29	新聞	北海道新聞(函館版)	水産人材講座 初の修了生(北大院運営 函館大・秋山さん)

<報道実績(一部抜粋)>



令和6年 5 月 11 日

NHK おはよう北海道土曜プラス



令和6年 8 月 30 日

NHK ホットニュース函館



令和6年 12 月 23 日 函館新聞



令和6年 11 月 13 日

HBC 北海道放送 今日ドキッ！

その他の活動

北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部
地域水産業共創センター
令和6年度事業報告書

発行 2025 年 6 月

発行者 北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部 地域水産業共創センター
〒041-8611 北海道函館市港町 3-1-1 北海道大学 函館キャンパス
Tel : 0138-40-5039 E-mail : kyousou@fish.hokudai.ac.jp



国立大学法人北海道大学
地域水産業共創センター
Regional Fisheries Co-Creation Center



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

大学院水産科学研究院
大学院水産科学院
水産学部